

室蘭工業大学国際交流センター

Center for International Relations
Muroran Institute of Technology

2012年度

活動報告書

Annual Report, 2012



目 次

1. 報告書の発刊にあたって	1
国際交流センター長（理事・副学長） 加賀屋 誠一	
2. 国際交流センターの業務	4
3. 国際交流センターの組織	5
4. 学内及び学外の会議等	8
5. 国際学术交流	13
6. 外国人留学生	16
7. 国際交流センター教員が担当した講義	25
8. 室蘭工業大学国際セミナー	29
9. 留学生を対象とした行事，研修等	30
10. 学术交流協定校との交流	39
11. 学生の海外への派遣	45
12. 外国人短期研修生・外国人研究員・外国人インターンシップ研修生受入れ	54
13. 国際交流クラブ	56
14. 広報活動	57
15. 教員の研究活動	59
16. 国際交流センターに関する新聞記事等	61
17. おわりに	65
国際交流センター准教授 山路 奈保子	

1. 報告書の発刊にあたって

国際交流センター長（理事・副学長） 加賀屋 誠 一

【本報告の趣旨】

この報告書は、各年度の当センターの活動と成果並びに課題をまとめ記録し、大学当局への報告とすることを目的として、2009年度から発行されてきているもので、今年度で4年目となります。またこの報告書は、学内の教職員、学生にも広く配布公開されており、そのことによって国際交流とその活動に対する理解や支援をいただいております。同時に報告書では、これまで国際交流の様々な活動への参画によって、いろいろな意見や提言もいただき、本学の国際交流活動のさらなる発展につなげてきていることも記されております。当センターの取り組みや活動においては、これまで海外からの研究者や留学生の受け入れや本学教職員、学生の海外派遣においても制度や取り組みに有益な提言があり、それらを有効に活用しながら様々な改善を図ってきております。さらに本報告書は、当センターの活動のみではなく、より広範に全学的な国際交流活動の記録として機能していくべき努力も図られております。そして広域的に地域社会並びに全国の関係機関にも配布を行い、本学の国際交流活動を多くの方々に発信、広報を行ってきております。

そのような観点から、この報告書が室蘭工業大学全体の国際交流活動をますます活性化させ、そのことにより本学の教育と研究のグローバル化、高度化に貢献することを祈念する次第であります。

【本年度の成果の概略】

この1年間、室蘭工業大学の国際交流活動に関連し、多くの成果がありました。まず、平成23年度制定された本学の国際交流規範というべき国際交流ポリシーの具体的な行動指針である国際交流アクションプログラムが策定されました。これは国際交流センターの行動指針であるとともに、広く全学の関係委員会・グループの協力のもとに国際交流活動を進めていくことを目指したものであり、相互に連携協力し推進していくことを目的にしたものです。今後、より具体的な進め方を工程表としてまとめ、目標を達成していきたいと考えております。

次に、数多くの学術交流協定校の拡大と更新が行われました。ドイツのツヴィッカウ応用科学大学、ケムニッツ工科大学、韓国のソウル保健環境研究院、インドネシアの北スマトラ大学との新たな協定が結ばれました。また韓国のソウル科技大学、中国の瀋陽工科大学、華中科技大学、蘇州大学、ドイツのダルムシュタット工科大学電気情報工学部との協定の更新が行われました。交流を促進するために、協定校との活発な往来も行われました。中国の内蒙古師範大学60周年記念式典、華中科技大学60周年記念式典には本学教職員が出席し、逆に華中科技大学、合肥工科大学からは訪問団を受け入れました。今後も量的質

的な学術交流協定校との交流活動の充実と向上を果たしていきたいと考えております。一方、学生の海外研修も活発に行われました。具体的にはオーストラリアのロイヤルメルボルン工科大学（RMIT）との語学研修交流、ヨーロッパ語学研修に多くの学生が参加しました。また学術交流協定校主催のサマースクール、交流事業にも本学学生が参加しております。さらに学生の派遣事業も長期留学という形で進められております。このように本学の学生の派遣事業は年々活発となっております。相互の語学研修では RMIT からの日本語研修の受け入れ、泰日工業大学からの短期研修生受け入れ、さらにインターンシップ研修生もロシア、ドイツ、中国などから受け入れました。短期留学生も学術交流協定校から 18 名、そのうち本学支援奨学金による留学生は 6 名、留学支援制度も定着してきております。留学生総数は 100 名を超え、うち 33 名に本学私費留学生支援奨学金を支給しました。今後とも様々な制度を活用し、増加させていきたいと考えております。

国際共同研究関係では、協定校での学術講演を大連交通大学、北スマトラ大学等で実施し、ロシアヨッヘ物理技術研究所教員との研究成果の論文作成およびニコラエフ無機化学研究所の研究成果の特許出願をおこない、研究交流のエビデンス化を行いました。また環境科学・防災研究センター主催で国際共同セミナーが開催され、研究面での交流の促進がなされました。さらに学生の国際会議発表、海外インターンシップのための本学学生支援の佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞についての応募も増え、今年は 11 名に授与され、活発な活動が目立ちました。このように、本学教職員のご協力により、研究面の交流もより推進されました。

留学生及び海外インターンシップ学生の増加への対応と、海外からの研究者等に対する短期滞在用宿舎を確保し、受け入れを支援するための施設として旧職員会館および留学生宿舎を改修建設された「国際交流会館」も開設され 11 月 1 日から運用を開始しました。これまで利用も多く、今後の国際交流のための宿泊滞在施設として重要性が増すことが期待されております。

人的ネットワーク形成のため facebook に国際交流センターのページを作成し、卒業留学生に参加してもらいネットワークを新たに形成し、その数は今や 90 名の参加に達しております。また関東地域に就職した留学生と情報交換会を開催し、ネットワーク網の強化も試みられております。さらに今後の留学生確保のために、外国人留学生等のための進学説明会、日本語学校に出向いての説明会、国際学術交流協定校を訪れた際には説明会を行ってくるなど PR 活動も積極的に行いました。このような PR 活動は交流促進に直結しており、今後も機会のあるごとに進めていきたいと考えております。

以上、今年度の成果を総括してまとめてみましたが、次年度以降においても国際交流ポリシーとそのアクションプログラムをもとに、多くの留学生や外国人研究者が、本学の日本人学生、教職員とともに活動し、教育・研究により高い成果を相乗的に獲得するように、センターとして日々努力していきたいと考えております。

【あしがき】

今年、前センター長であります野口徹前理事副学長の後を受け、その任を務めてまいりました。私としては初めての経験で、何かにつけて不行き届きが多々あったと反省しております。にもかかわらず、国際交流センターの活動が様々な面で数多くの成果が得たことは、優秀なセンタースタッフおよび国際交流委員会の委員の皆様、またご協力いただいた多くの教職員の皆様の賜物であったことと心から感謝申し上げます。また日頃様々なイベント等で交流の輪を広げていただいた自由闊達な日本人学生および留学生の皆さんにも感謝したいと思います。そして今後も国際交流センターの活動、ひいては室蘭工業大学の国際化を推進することに努めていきたいと考えておりますので、関係する皆様のより一層のご協力、ご支援のほどお願い申し上げます。

2. 国際交流センターの業務

現在の国際交流センターの業務は次のとおりである。

- (1) 国際交流事業に関すること
 - ・ 外国の大学等との交流協定締結, 更新等の支援事務
 - ・ 交流協定校等との交流事業, 行事の支援
 - ・ 本学教職員の国際活動の支援
 - ・ 本学学生の国際性教育の支援
 - ・ 本学の国際交流推進に係わる企画と立案, その支援

- (2) 外国人留学生に関すること
 - ・ 留学生(正規生, 研究生, 聴講学生, 短期研修生, インターンシップ研修生を含む)の受入れ支援及び受入れの促進
 - ・ 留学生に対する日本語教育その他の教育と, 共通教育及び専門教育の修学支援
 - ・ 留学生のための宿舎など生活支援にかかわる業務, 相談への対応
 - ・ 留学生のための各種奨学金の広報, 応募, 申請, 配分支援などに係わる業務
 - ・ 卒業, 修了者も含めた留学生との交流促進

- (3) 外国人研究員に関すること
 - ・ 外国からの研究員, 教職員の受入れ支援

- (4) 学生の海外派遣に関すること
 - ・ 本学学生の海外留学, 短期研修, 国際会議参加などの支援

- (5) その他, 国際交流及び留学生に関すること
 - ・ 国際交流に係わる他大学, 地域自治体, 諸機関との連携活動

3. 国際交流センターの組織

3.1 国際交流センターの構成員

2012年度(平成24年度)の国際交流センターの人員構成は、専任教員2名、事務職員3名、特定専門職員1名及び事務補佐員1名の計7名である。センター長は理事(連携担当)・副学長が兼務している。

国際交流センター長	加賀屋 誠 一(理事・副学長)
専任准教授	門 澤 健 也
専任准教授	山 路 奈保子
ユニットマネジャー 兼ユニットリーダー	塩 崎 泰 子
国際交流ユニット	宮 下 慎 也
国際交流ユニット	武 川 梢
特定専門職員	内 藤 直 子
事務補佐員	野 田 葉津希



左より、内藤 直子・山路 奈保子・門澤 健也・加賀屋 誠一・塩崎 泰子・宮下 慎也・武川 梢・野田 葉津希(敬称略)

3.2 国際交流委員会

2010年度から、従来の兼任教員に代わり、新たに「国際交流委員会」が発足した。その任務は次のとおりである。また、議題の審議のみでなく、本学の国際交流に関連する企画立案、提言、事業実施への協力支援の機能も期待されている。

- (1) 国際学術交流及び国際交流事業に関すること。
- (2) 外国人留学生の受入れに関すること。(外国人留学生入試に係るものは除く。)
- (3) 外国人留学生の奨学金に関すること。
- (4) 学生の海外留学に関すること。
- (5) 外国人研究者の受入れに関すること。
- (6) 外国人インターンシップ研修生の受入れに関すること。
- (7) その他国際交流事業及び外国人留学生に関する事項

所 属	職 名	氏 名
国際交流センター	センター長	加賀屋 誠 一
国際交流センター	准教授	門 澤 健 也
国際交流センター	准教授	山 路 奈保子
建築社会基盤系学科	教 授	大坂谷 吉 行
建築社会基盤系学科	准教授	吉 田 英 樹
機械航空創造系学科	教 授	樋 口 健
機械航空創造系学科	准教授	岸 本 弘 立
応用理化学系学科	教 授	岡 本 洋
応用理化学系学科	教 授	高 野 信 弘
情報電子工学系学科	教 授	中 根 英 章
情報電子工学系学科	教 授	前 田 純 治
全学共通教育センター	教 授	二 宮 公太郎
全学共通教育センター	准教授	クラウゼ=小野・マルギット
国際交流センター事務室	室 長	塩 崎 泰 子



クラウゼ オノ



岡 本 洋



岸 本 弘 立



樋 口 健



大坂谷 吉 行



二 宮 公太郎



吉 田 英 樹



前 田 純 治



中 根 英 章



高 野 信 弘

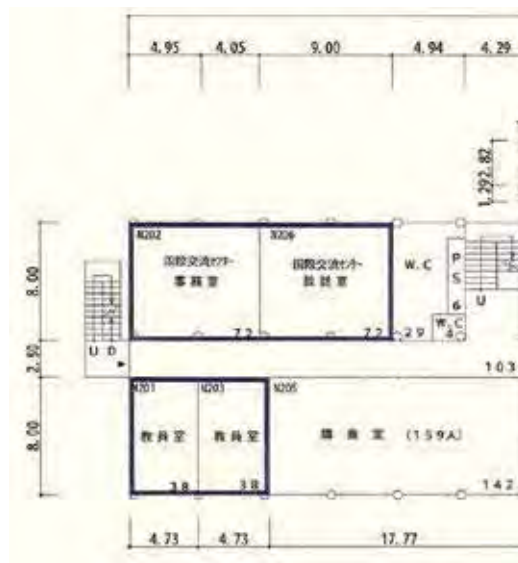
3.3 センターの活動拠点

国際交流センターの活動拠点は以下の図及び写真に示す事務室、談話室並びに2名の専任教員の教員室である。

2010年度末に談話室の間仕切り工事をおこなった。留学生同士および留学生と学生、教職員の交流懇談を目的として2スパンの談話室が準備されているが、その半分が日本語教育の講義室ならびに国際交流委員会等の会議室として頻繁に利用されていることから、本来の機能が十分果たせていない状態であった。これを可動式の遮音壁で間仕切りし、かつセンター事務室との間にドアを設けて直接通行を可能にし、本来の交流談話の機能を十分に発揮することができるようにした。留学生教育に有効に使用することが期待されている。



国際交流センター事務室内



国際交流センター事務室と談話室との間のドア



国際交流センター談話スペース



日本語授業風景

4. 学内及び学外の会議等

4.1 国際交流委員会

国際交流委員会は、(1) 理事又は副学長のうちから学長が指名する者。(2) 国際交流センター一長。(3) 国際交流センター専任教員。(4) 各学科及び全学共通教育センターから選出された講師以上の教員各2名。ただし、1名は教授とする。(5) 国際交流センター事務室長。(6) その他学長が必要と認めた者で組織される。

2012年度の国際交流委員会の開催日及び審議事項等は以下のとおりである。

第1回 4月25日(水)

- 議題1. ドイツ・ツヴィッカウ応用科学大学との学術交流協定締結について
2. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について
3. 国際交流ポリシーに係るアクションプログラム検討WGについて
4. 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムについて
5. 日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費給付制度受給者選考について
6. 研究生(外国人留学生)出願資格について
- 報告1. 派遣留学生の選考結果について
2. 民間団体等からの奨学金受給者の選考について
3. 泰日工業大学短期研修生の受入れについて
4. 学術交流協定校からのサマースクールについて
5. 平成24年4月留学生受入状況について
6. 平成24年度中期計画実施内容について
7. 留学生オリエンテーションについて
8. 交流協定校(華中科技大学)からの訪問団について
9. 語学研修及び海外研修について

第2回 6月18日(月)

- 議題1. 特別研究生(外国人留学生)の研究期間延長について
2. 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムについて
3. 国際交流ポリシーに係るアクションプログラムについて
4. 室蘭工業大学教育研究重点経費(国際連携分)について
- 報告1. グローバル人材育成推進事業について
2. オーストラリア・ニューサウスウェルス大学との研究室間交流について
3. 民間団体等奨学金被推薦者の選考について
4. 泰日工業大学短期研修生の受入れについて

第3回(持ち回り) 7月17日(火)

- 議題1. 研究生の出願資格について

第4回 7月30日(月)

- 議題1. 研究生(外国人留学生)の選考について
2. 特別聴講学生の受入れについて
3. ドイツ・ケムニッツ工科大学との学術交流協定の締結について
4. 中国・曲阜師範大学との学術交流協定の締結について
5. 韓国・ソウル保健環境研究院との学術交流協定の締結について
6. 韓国・ソウル科学技術大学校との学術交流協定の更新について
7. 国際交流会館規則及び使用規程について
8. 外国人留学生宿舍規則の改正について
9. 国際交流ポリシーに係る優先アクションプログラムについて
- 報告1. 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムについて
2. 民間団体等奨学金被推薦者の選考について

3. 学生の海外研修派遣状況について
4. 室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞について

第5回（持ち回り） 8月3日（金）

議題1. 大使館推薦による国費外国人留学生の受入れ内諾について

第6回 9月27日（木）

議題1. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金の選考について

2. 明德寮入居留学生の失火について

報告1. 国際交流会館オープンセレモニーについて

2. 民間団体等奨学金被推薦者の選考について
3. R M I T 語学研修について
4. 内蒙古師範大学60周年記念事業について

第7回 10月30日（火）

議題1. ドイツ・ダルムシュタット工科大学との学術交流協定の更新について

2. 中国・瀋陽工業大学との学術交流協定の更新について
3. 中国・華中科技大学との学術交流協定の更新について
4. 中国・蘇州大学との学術交流協定の更新について

報告1. 国際交流会館オープンセレモニーについて

2. 民間団体等奨学金被推薦者の選考について
3. R M I T 日本語研修受入れについて
4. 華中科技大学60周年記念事業について

第8回 11月22日（木）

議題1. 平成25年度国内採用による国費外国人留学生（研究留学生）被推薦者の選考について

2. 室蘭工業大学重点研究経費（国際連携分）受給者の選考について
3. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金の支給打ち切りについて

報告1. 短期留学推進制度（派遣）に基づく派遣留学生について

2. 日本学生支援機構学生留学生交流支援制度について
3. 平成24年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生担当課長等合同会議について
4. 留学生受入れ状況について
5. R M I T 日本語研修受入れについて
6. 国際交流関係行事について

第9回（持ち回り） 1月9日（水）

議題1. インドネシア・北スマトラ大学との学術交流協定の締結について

第10回 2月7日（木）

議題1. 研究生（外国人留学生）の選考について

2. 研究生（外国人留学生）の期間延長について
3. 特別研究生（外国人留学生）の受入れについて
4. 特別聴講学生（外国人留学生）の受入れについて
5. 室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金受給者の選考について
6. 大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の選考について
7. 室蘭工業大学重点研究経費（国際連携分）受給者の選考について
8. マレーシア政府派遣学部留学生の受入れについて

報告1. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について

2. 室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞者選考結果について
3. 日本学生支援機構学生留学生交流支援制度申請について

4. 平成24年度中期計画進捗状況について
5. 合肥工業大学訪問団受入れについて
6. 国際交流会館について
7. 平成24年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会について
8. 平成24年度留学生交流会について

第11回（持ち回り） 2月27日（水）

議題1. 室蘭工業大学外国人客員研究員規則の一部改正について

第12回 3月28日（木）

議題1. 優先アクションプログラム（国際交流委員会担当分）について

報告1. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について

2. アメリカ合衆国・オレゴン工科大学との国際学術交流協定の終了について
3. 平成24年度国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの審査所見について
4. 日本学生支援機構留学生交流支援制度申請について
5. 平成25年度中期計画について
6. 外国人客員研究員渡航費の取扱いについて
7. 室蘭工業大学重点研究経費（国際連携分）の募集について
8. 室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞の募集について
9. 語学研修及び海外研修について
10. アメリカ合衆国・ウエスタン・ワシントン大学等出張について
11. 平成25年4月留学生数について

国際交流委員会：国際交流ポリシー優先アクションプログラム検討WG

- 第1回 WG会議 平成24年5月22日
- 第2回 WG会議 平成24年6月5日
- 第3回 WG会議 平成24年6月12日
- 第4回 WG会議 平成24年10月11日
- 第5回 WG会議 平成24年10月30日
- 第6回 WG会議 平成24年11月13日
- 第7回 WG会議 平成24年11月27日
- 第8回 WG会議 平成24年12月11日
- 第9回 WG会議 平成24年12月18日
- 第10回 WG会議 平成25年1月15日

4.2 国際交流センター教職員打合せ会議

原則として、毎週月曜日に、センター教職員と連絡調整を兼ねた打合せ会議を開催している。

4.3 室蘭市国際交流推進協議会

室蘭市では、国際化時代に対応した地域づくりを進めるため、全市的視点から国際交流を推進することを目的とする、室蘭市国際交流推進協議会を組織している。本学は会員として参加するとともに、会長職に佐藤一彦学長が、幹事職に加賀屋誠一国際交流センター長が就任している。

開催日：5月25日（金）

出席：塩崎

主催 室蘭市国際交流推進協議会

参加団体 室蘭工業大学、室蘭国際交流センター、（財）室蘭市体育協会、室蘭商工会議所、室蘭文化連盟、登別室蘭青年会議所、室蘭地区高等学校校長会、胆振国際理解教育研究会、室蘭ロータリークラブ、室蘭ライオンズクラブ、室蘭市女性団体連絡協議会、国際ソロプチミスト室蘭、室蘭ルネッサンス、ノックスビルの会、その他会員団体多数

- 議題：1. 平成 23 年度事業報告について
2. 平成 23 年度収支決算報告について
3. 平成 23 年度監査報告について
4. 平成 24 年度事業計画（案）について
5. 平成 24 年度収支予算（案）について

4.4 マレーシア高等教育基金借款事業(HELP3) 大学説明会

開催日：6月9日（土），場所：セランゴール大学（マレーシア・クアラルンプール）
出席：加野（しくみ情報系領域），齋藤（入試グループ）
主催：HELP3 大学説明会第 68 回日本マレーシア高等教育大学連合運営委員会
内容：1. 大学説明会
2. 第 68 回日本マレーシア高等教育大学連合運営委員会

4.5 外国人学生のための進学説明会

開催日：7月15日（日），場所：サンシャインシティ文化会館展示ホールD
出席：門澤，宮下
主催：独立行政法人日本学生支援機構

4.6 室蘭工業大学大学院・学部進学説明会

開催日：9月26日（水），場所：千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校
出席：宮下

4.7 平成 24 年度国立大学法人留学生センター長及び留学生担当課長等合同会議・平成 24 年度国立大学法人留学生担当課長会議

開催日：11月5日（月），場所：一橋大学一橋講堂（旧・学術総合センター一橋記念講堂）
出席：塩崎

主催：東京外国語大学，埼玉大学（当番校）

- ・文部科学省所管事項説明
- ・独立行政法人日本学生支援機構事業説明
- ・公益財団法人日本国際教育支援協会事業説明
- ・基調講演「国立大学留学生センターの現状と展望」（放送大学 理事・副学長 二宮 皓）
- ・協議事項：日本人学生の海外派遣について

4.8 マレーシア高等教育事業(MJHEP プログラム) 見学会

開催日：11月19日（月），場所：KKTM ブラナン（マレーシア・クアラルンプール）
出席：藤木（もの創造系領域），笠原（入試グループ）
主催：YPM マラ教育財団
内容：MJHEP プログラムの見学会

4.9 平成 24 年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

開催日：12月3日（月），場所：ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING

出席：塩崎

主催：岩手大学，秋田大学（当番校）

テーマ：グローバル化推進のための課題と展望

「教育分野における国際化の動向について」

永山 賀久（文部科学省大臣官房国際課長）

「大学の国際化関係施策について」

佐藤 邦明（文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室国際企画専門官）

「研究交流と大学の国際化」

石田 徹（文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官）

基調講演『東京大学における秋季入学の検討状況』

－「よりグローバルに、よりタフに」学生を育てるために－

鈴木 敏之（東京大学 副理事・経営支援担当部長）

ケーススタディ

第1テーマ：早稲田大学における職員のグローバル化

- ・進行：榎本 克彦（秋田大学 副学長）
- ・話題提供：谷口 邦生（早稲田大学 理事）

第2テーマ：東北大学のグローバル展開の取組

- ・進行：岩渕 明（岩手大学 理事・副学長）
- ・話題提供：青木 早苗（東北大学総長室特任教授（国際交流企画調整担当））

第3テーマ：福島大学の国際戦略の取り組み

- ・進行：岩渕 明（岩手大学 理事・副学長）
- ・話題提供：小沢 喜仁（福島大学 副学長）

4.10 北海道留学生交流推進協議会総会

開催日：1月15日（火）、 場所：北海道大学百年記念館

出席：塩崎

主催：北海道留学生交流推進協議会

議題1. 留学生支援事業について

2. 札幌国際交流会館について

報告1. 派遣、受入れ及び支援に向けた取組について

2. 北海道内における留学生受入等の現状について

4.11 平成24年度室蘭工業大学留学生交流推進懇談会

本学の留学生は、市内外の国際交流推進関係諸団体から種々の支援を受けており、これら諸団体に対し本学の留学生に対する取り組み状況等を説明し、意見交換を通して理解を得ると共に、今後の留学生受入れ及び学生生活に係るなお一層の支援を仰ぎ、留学生交流事業の円滑な推進を図ることを目的に懇談会を開催した。

開催日：2月22日（金）、 場所：蓬岫殿

主催：室蘭工業大学

出席団体：室蘭ロータリークラブ、室蘭北ロータリークラブ、登別ロータリークラブ、室蘭国際交流センター、(財)室蘭ルネッサンス、国際ソロプチミスト、室蘭ユネスコ協会、内モンゴル教育基金、NPO法人羅針盤、室蘭市女性団体連絡協議会、国際姉妹都市ノックスビルの会、室蘭ライオンズクラブ、北海道新聞室蘭支社、室蘭民報社

懇談内容

1. 室蘭工業大学の留学生受入れ状況及び交流状況について
2. 留学生と地域の交流等について

5. 国際学術交流

5.1 国際学術交流協定

本学は、教育研究活動の国際化を進めるために、海外の大学、研究機関と研究交流協定を締結し、交流の促進に努めている。2012年度末時点で33大学・機関と協定を締結し、研究交流ならびに学生交流を推進している。

国別では中国7大学、韓国6大学・機関、タイ3大学、ロシア3大学・機関、ドイツ4大学、以下、アメリカ、オーストラリア、フィンランド、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、ウクライナ、台湾、ベトナム、インドネシアが各1大学である。

2012年度は、ドイツのツヴィッカウ応用科学大学、ケムニッツ工科大学、韓国のソウル特別市保健環境研究院、インドネシアの北スマトラ大学との交流協定を締結した。また、ソウル科学技術大学校、瀋陽工業大学、華中科技大学、蘇州大学、ダルムシュタット工科大学電気情報工学部との交流協定の更新が行われた。

【大学間学術交流協定】

以下のとおり、2012年度末において国際学術交流協定は30大学・3機関である。

(注) 担当教員名は上段より連絡窓口1, 2, 3の順に記載

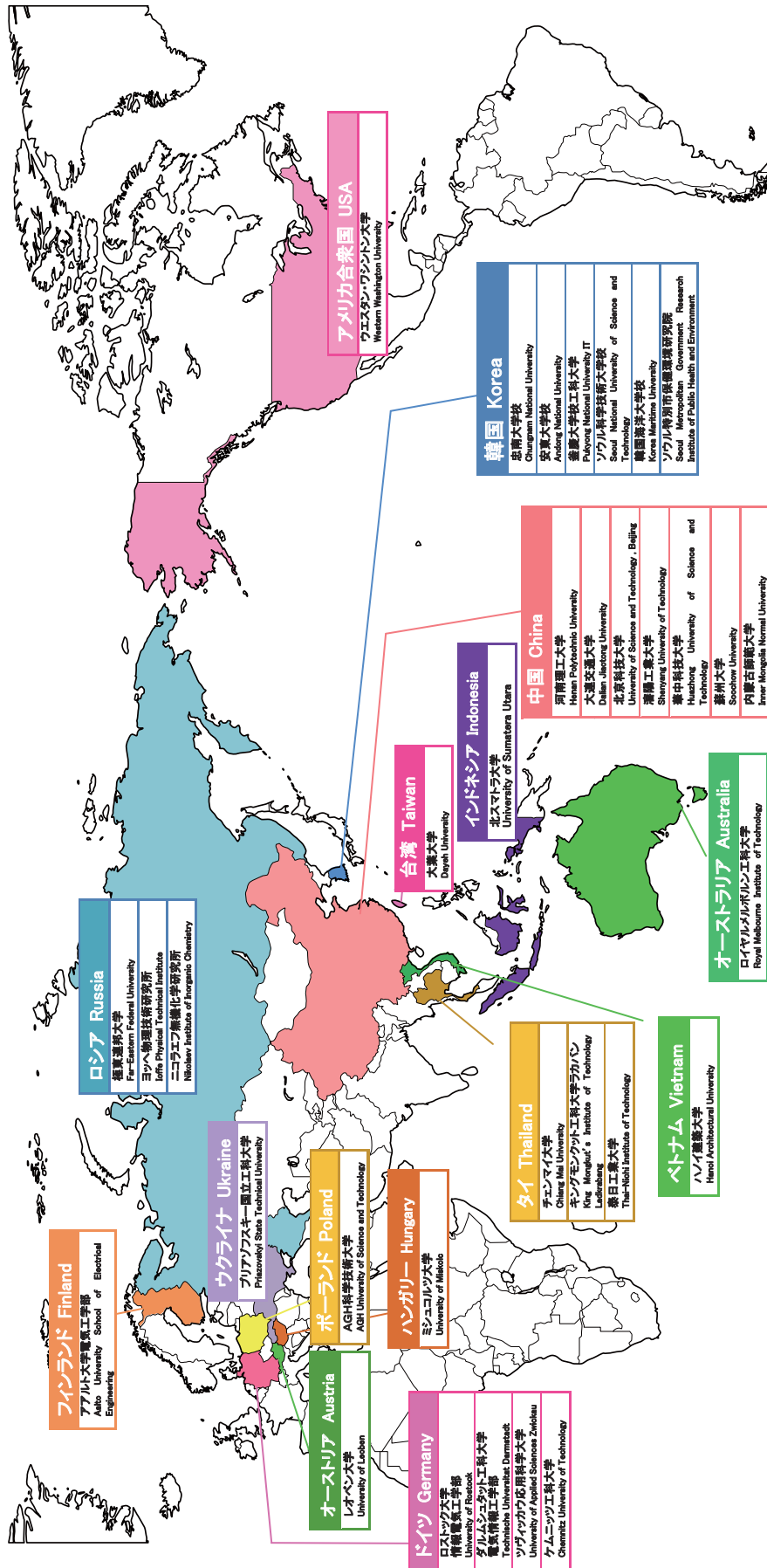
	締結大学名	国名	締結年月日	担当教員名
1	河南理工大学	中国	1988年11月11日	教授 板倉賢一
2	大連交通大学	中国	1996年10月1日	教授 齋藤 務 教授 平井伸治
3	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	1999年3月26日	准教授 門澤健也
4	ウェスタン・ワシントン大学	アメリカ	2000年10月27日	准教授 ジョンソン マイケル 准教授 ゲイナー ブライアン 准教授 山路奈保子
5	アアルト大学電気工学部	フィンランド	2001年3月15日	教授 鈴木幸司 教授 濱 幸雄
6	北京科技大学	中国	2004年2月2日	准教授 魚住 超
7	ロストック大学情報電気工学部	ドイツ	2004年2月20日	准教授 川口秀樹 准教授 クラウゼ=小野・マルギット
8	忠南大学校	韓国	2004年4月20日	教授 濱 幸雄 教授 鈴木幸司
9	安東大学校	韓国	2004年6月8日	教授 藤木裕行
10	釜慶大学校工科大学	韓国	2004年9月1日	教授 中野博人 講師 長船康裕
11	チェンマイ大学	タイ	2005年4月19日	教授 風間俊治 助教 関 千草
12	キングモンクット工科大学ラカバン	タイ	2005年4月20日	教授 相津佳永 教授 大坂谷吉行 准教授 吉田英樹
13	ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2005年5月30日	教授 平井伸治
14	レオベン大学	オーストリア	2006年10月10日	教授 佐藤孝紀 准教授 武田圭生 講師 松本大樹

15	ミシュコルツ大学	ハンガリー	2006年11月13日	教授 佐藤孝紀 准教授 武田圭生 講師 松本大樹
16	極東連邦大学	ロシア	2007年2月19日	教授 板倉賢一 教授 後藤龍彦
17	ハノイ建築大学	ベトナム	2007年3月27日	教授 木幡行宏 講師 山田 深
18	ソウル科学技術大学校	韓国	2007年7月25日	教授 張 俗喆 准教授 岸本弘立
19	ダルムシュタット工科大学 電気情報工学部	ドイツ	2007年11月9日	准教授 川口秀樹 准教授 渡辺浩太
20	瀋陽工業大学	中国	2007年11月9日	講師 真境名達哉 准教授 花島直彦
21	華中科技大学	中国	2007年11月12日	教授 清水一道
22	蘇州大学	中国	2007年11月26日	教授 竹ヶ原裕元 准教授 渡邊真也
23	内蒙古師範大学	中国	2008年6月2日	教授 岩佐達郎 准教授 加野 裕
24	韓国海洋大学校	韓国	2009年1月19日	教授 木村克俊
25	AGH科学技術大学	ポーランド	2009年8月27日	准教授 魚住 超 教授 板倉賢一 准教授 須藤秀紹
26	泰日工業大学	タイ	2010年4月1日	教授 塩谷浩之 教授 藤木裕行
27	プリアゾフスキー国立工科大学	ウクライナ	2010年11月16日	教授 清水一道 准教授 吉田英樹
28	大葉大学	台湾	2010年12月1日	准教授 山路奈保子 准教授 門澤健也
29	ヨッヘ物理技術研究所	ロシア	2011年7月12日	教授 平井伸治 教授 関根ちひろ 助教 葛谷俊博
30	ツヴィッカウ応用科学大学	ドイツ	2012年6月8日	准教授 クラウゼ=小野・マルギット 教授 相津佳永
31	ケムニッツ工科大学	ドイツ	2012年9月20日	准教授 クラウゼ=小野・マルギット 准教授 須藤秀紹 教授 佐賀聡人
32	ソウル特別市保健環境研究院	韓国	2012年9月20日	教授 張 俗喆 教授 岩佐達郎 助教 関 千草
33	北スマトラ大学	インドネシア	2013年2月15日	教授 河合秀樹 教授 大平勇一 教授 埜上 洋

【三者間学術交流協定】

締結大学名	国名	締結年月日	担当教員名
ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2008年11月18日	教授 平井伸治
独立行政法人産業技術総合研究所	日本		

図1 本学との学術交流協定校



6. 外国人留学生

6.1 留学生数

本学は、1979年から外国人留学生を受入れており、留学生数は2003年の60名をピークに、2006年には45名まで減少したが、国際交流センター設置後は、留学生数も大幅に増加し、2009年は初めて100人に到達し、2013年は108名を受入れるに至った。

これまでの留学生受入れの推移を表1に、留学生数(学科別・学年別)を表2に、また、留学生数(国籍別・身分別)を表3に示す。

なお、本活動報告書は2012年度版であるが、10月入学者がいることから、調査・統計の関係上、2012年5月1日ではなく、2013年5月1日の数字を計上した。

6.2 留学生数の推移に関する考察と展望

表1に見るように、1979年から1986年までは政府派遣留学生が大半を占めており、これは国交を回復した直後の中国からの留学生がほとんどだった。

1988年からは、当時の中曽根首相のいわゆる「留学生10万人計画」を受けて、国費留学生の数が増加していく。また同年から、マレーシア政府派遣留学生の受入れも始まり、留学生数は徐々に増加していった。さらに1993年から2003年ごろまでは国費留学生が安定的に配分され、2003年には本学の留学生受入れが始まってから最大の60人に達した。

2007年に国際交流センターが設置されてからは、留学生獲得のため国内・国外での広報活動に努力し、さらに国費や外国政府派遣のみに頼らない本学独自の私費留学生に対する奨学金制度を創設するなどの措置をとったため、2008年からは増加に転じ、2009年には、2006年に一旦底を打った45人の2倍超である100人に到達した。

このことには上記以外に、次の3つの理由も大きいと思われる。

- ① 学術交流協定校からの短期留学生が増加したこと。
- ② 上記の短期留学生も含めて、在学する留学生に対する国際交流センターや本学全体の支援が、留学生に好感を持って理解され、それがそれぞれの国の留学志願者や国内の高専からの編入学希望者に伝わって、本学を志望する学生が増えたこと。
- ③ 短期留学生が本学で半年から1年学ぶ間に、本学や室蘭を気に入る、信頼できる指導教員も見つけて、その後修士課程や博士課程に再度留学してくるケースが出てきたこと。

今後の展望としては、いわゆる「留学生30万人計画」もあり、本学としても現在の100人超から、150人、さらには200人以上を目標として留学生の増加を図っていくことが求められる。

しかしながら、前述したように2006年の留学生数45人から、国際交流センター設置後に2年をかけて100人まで増やしたときには、宿舍の確保が最重要かつ緊急の課題となり、次のような措置でこれに対応した経緯がある。

- ① 民間アパートを大学が借り上げて、既設の留学生宿舍と同じ家賃で留学生を居住させた。
- ② 職員宿舍の一部を留学生用に転用した。
- ③ 室蘭市営アパートの一部を、本学が入退去を管理する留学生専用宿舍として確保した。
- ④ 明德寮に留学生用の部屋を確保した。

留学生数の拡大には、奨学金及び宿舍の確保が最大の課題である。

表1 留学生数（年度別）集計（各年5月1日現在）

	工学部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			小計			合計
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	
1979	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2
1980	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	4
1981	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
1982	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	7	0	8
1983	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	8	0	9
1984	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	1	7	1	9
1985	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	5	3	8
1986	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	3	0	2	4	1	7
1987	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	2	6
1988	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	1	10	0	1	11
1989	0	2	0	11	0	0	0	0	0	1	3	0	12	5	0	17
1990	0	4	0	14	0	0	2	0	0	3	2	3	19	6	3	28
1991	0	5	0	11	0	1	5	0	0	1	0	3	17	5	4	26
1992	0	5	0	8	2	5	9	0	4	1	0	2	18	7	11	36
1993	0	3	0	7	5	9	11	0	5	5	0	0	23	8	14	45
1994	0	2	1	12	4	8	12	0	6	3	0	1	27	6	16	49
1995	0	3	2	8	1	8	14	0	5	3	0	1	25	4	16	45
1996	0	5	5	5	1	5	14	0	4	9	0	4	28	6	18	52
1997	0	11	5	12	0	3	15	0	2	0	0	4	27	11	14	52
1998	0	14	4	12	0	3	11	0	4	2	0	4	25	14	15	54
1999	0	14	2	9	0	2	13	0	6	3	0	4	25	14	14	53
2000	0	13	2	10	1	7	12	0	3	3	0	3	25	14	15	54
2001	0	12	3	5	1	11	18	0	3	1	0	1	24	13	18	55
2002	1	10	3	2	0	10	14	1	8	1	0	2	18	11	23	52
2003	1	9	7	2	0	13	17	0	7	0	0	4	20	9	31	60
2004	0	9	5	2	0	17	12	0	7	0	0	5	14	9	34	57
2005	0	12	7	2	1	14	9	0	5	0	0	2	11	13	28	52
2006	0	13	9	2	1	10	5	0	4	0	0	1	7	14	24	45
2007	1	16	8	1	0	6	4	0	5	1	0	5	7	16	24	47
2008	1	25	10	1	0	9	3	2	5	0	0	18	5	27	42	74
2009	0	29	11	1	1	19	3	3	10	0	1	22	4	34	62	100
2010	0	34	12	0	1	20	4	3	16	0	0	18	4	38	66	108
2011	1	34	11	1	0	12	2	3	23	0	0	19	4	37	65	106
2012	1	24	15	2	1	17	2	1	21	0	0	16	5	26	69	100
2013	0	29	18	2	1	21	2	0	22	0	0	13	4	30	74	108

グラフ1 留学生数（年度別）集計（各年5月1日現在）

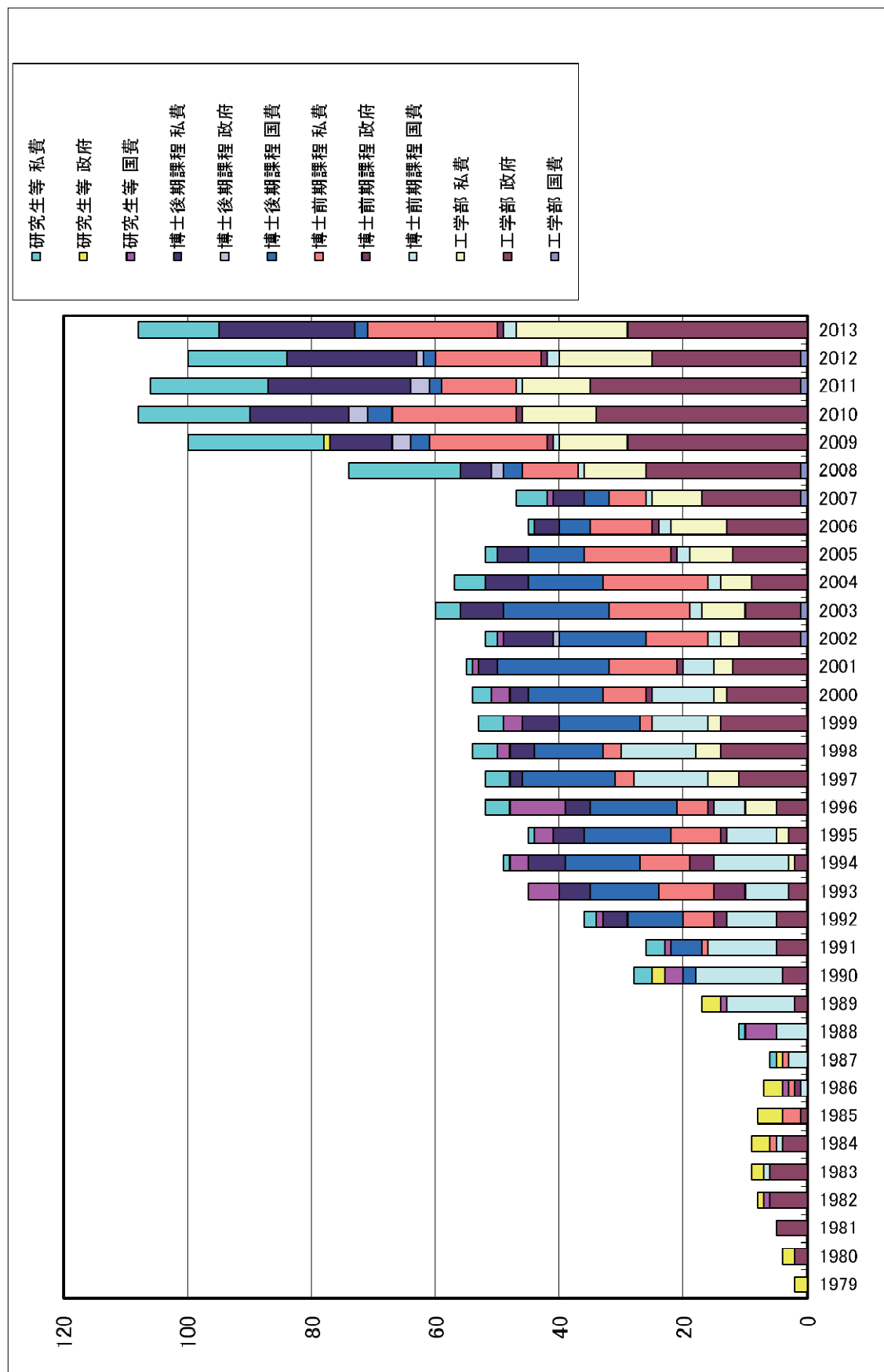


表2 留学生数（学科・学年別）集計（2013年5月1日現在）

【学部】

学 科 名	1 年	2 年	3 年	4 年	合 計
建築社会基盤系学科	1	0	3	2	6
機械航空創造系学科	4	6	8	7	25
応用理化学系学科	2	0	1	0	3
情報電子工学系学科	3	1	4	5	13
合 計	10	7	16	14	47

【博士前期課程】

専 攻 名	1年	2年	合 計
建築社会基盤系専攻	0	0	0
公共システム工学専攻	0	2	2
機械創造工学系専攻	6	2	8
航空宇宙システム工学専攻	0	1	1
応用理化学系専攻	0	2	2
情報電子工学系専攻	4	7	11
数理システム工学専攻	0	0	0
合 計	10	14	24

【博士後期課程】

専 攻 名	1年	2年	3年	合計
建設工学専攻			2	2
生産情報システム工学専攻			0	0
物質工学専攻			1	1
創成機能科学専攻			0	0
建設環境工学専攻	1	0	3	4
生産情報システム工学専攻	1	4	4	9
航空宇宙システム工学専攻	0	0	0	0
物質工学専攻	0	1	3	4
創成機能工学専攻	2	1	1	4
合 計	4	6	14	24

【その他】

研究生	2
科目等履修生	0
特別研究学生	6
特別聴講学生	5
合 計	13

表3 留学生数（国・身分別）集計（2013年5月1日現在）

国名	学部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			合計		
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費
中国	0	0	11	1	0	13	1	0	17	0	0	6	2	0	47
マレーシア	0	29	5	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	30	8
韓国	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	5
ラオス	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
タイ	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	4	1	0	6
ネパール	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ベトナム	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
エジプト	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	0	29	18	2	1	21	2	0	22	0	0	13	4	30	74

6.3 奨学金

私費外国人留学生の奨学金受給状況は表 4 のとおりであり、私費留学生の 66%が奨学金を受給している。

表 4 各種奨学金の受給（身分別）状況（2012 年 10 月 1 日現在）

奨学金名	学部 (14)	博士前期課程 (17)	博士後期課程 (23)	研究生 (7)	特別研究学生 (6)	特別聴講学生 (7)	科目等履修生	合計 (74)
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金(月額 50,000 円)	1							1
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金(月額 30,000 円)	9	8	13					30
日本学生支援機構留学生交流支援制度(短期受入れ)奨学金(月額 80,000 円)					2			2
日本学生支援機構 21 世紀東アジア青少年大交流計画奨学金(韓国)(月額 80,000 円)					1			1
日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費(大学院:月額 65,000 円, 学部:月額 48,000 円)	1	2	2					5
日本国際教育支援協会一般奨学金(月額 30,000 円)		2	1					3
北海道外国人留学生国際交流支援事業助成金(月額 20,000 円)		3						3
財団法人ロータリー米山記念奨学会奨学金(月額 140,000 円)		1	1					2
共立国際交流奨学財団外国人留学生奨学金(月額 100,000 円)		1						1
ドコモ留学生奨学金(月額 120,000 円)		1						1
財団法人日揮・実吉奨学会奨学金(年額 250,000 円)		2						2
財団法人平和中島財団奨学金(月額 120,000 円)		2						2
財団法人日立国際奨学財団奨学金(月額 180,000 円)			1					1
合計	11	22	18	0	3	0	0	54

注 1 実受給者数は、49 名である。

注 2 上段()は、私費外国人留学生数である。

注 3 室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金の受給者数は、6 名(支給期間 平成 24 年 4 月から 9 月、月額 50,000 円)であった。

6.4 宿舎

研究員宿舎

国際交流会館(研究員宿舎) : シングル:6室, ツイン:1室

留学生宿舎

- (1) 国際交流会館(留学生宿舎1) : 個室, 12室 (入居期間1年)
- (2) 留学生アパート(留学生宿舎2) : 2名入居, 12室 (入居期間1年)
- (3) 明德寮 : 3名入居, 16室

この他に本学の宿舎ではないが, 市営アパート25室を留学生用の宿舎として確保している。

6.4.1 国際交流会館

2012年度に職員会館と旧留学生宿舎を改修し, 2012年11月に外国人研究員宿泊施設と留学生宿舎を併設した国際交流会館を竣工し, 運用を開始した。

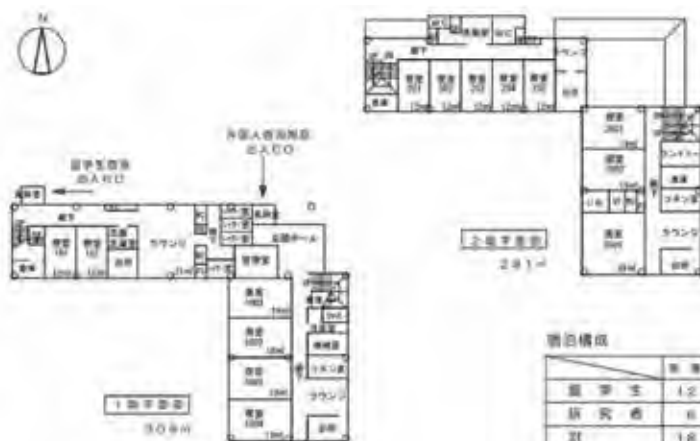


3階平面図

134㎡



オープニングセレモニー



宿泊構成			
	個室	2名	3名
留学生	12	0	12
研究員	6	1	7
計	18	1	19

国際交流会館（研究員宿舎）



玄関ロビー



キッチン（共同）



個室

国際交流会館（留学生宿舎 1）



ラウンジ



キッチン（共同）

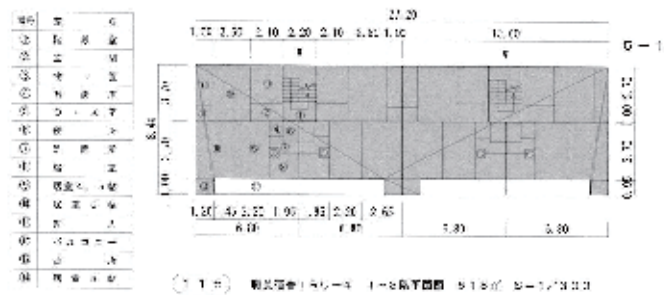


個室

6.4.2 留学生アパート(留学生宿舎 2)



外観



個室

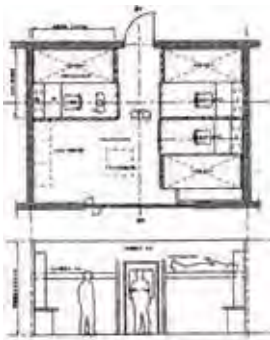
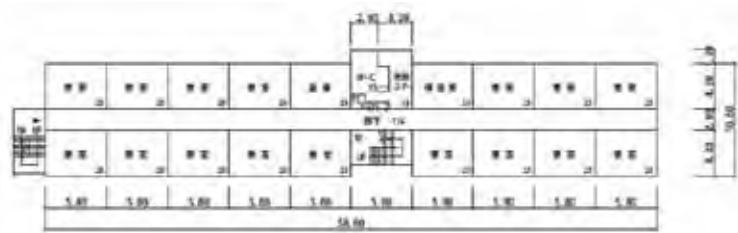


台所

6.4.3 明德寮 A棟 4階



外観



個室ブース



補食室 (各階共同)



浴室 (共同)



洗濯室 (共同)

6.4.4 市営アパート (水元団地)



外観



和室



台所

7. 国際交流センター教員が担当した講義

7.1 国際交流センター教員担当講義一覧

国際交流センター教員が2012年度に担当した講義は以下のとおりである。

2012 年度前期	2012 年度後期
日本語補講 日本語初級 I 日本語初級 II 学部・大学院 日本語科目 日本語 A1 (初級～中級) 日本語 B1 (中級) 日本語 C1 (中級～上級) 日本語 D1 (上級) 学部・大学院 共通科目 海外語学研修 ^{注1} 新冠農業実習(社会体験実習)	日本語補講 日本語初級 I 日本語初級 II 学部・大学院 日本語科目 日本語 A2 (初級～中級) 日本語 B2 (中級) 日本語 C2 (中級～上級) 日本語 D2 (上級) 学部・大学院 共通科目 異文化交流 B ^{注2}

注1 海外語学研修については第11章に述べる

注2 異文化交流 A(前期開講)は全学共通教育センター クラウゼ・小野教員が担当

7.2 日本語補講

国際交流センターでは、日本語学習経験が少ない、または全くない学生を対象に初級レベルの日本語補講(単位とならない)を開講している。主に本国で大学卒業後来日し博士前期課程への進学をめざす研究生、および本学協定校からの交換留学生が受講する。2012年度に実施した補講は以下のとおり。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| (1) 日本語初級 I (前期) | |
| 担当: 山路奈保子 | 時間数: 4.5 時間 (3 回) / 週 |
| 受講者数: 8 名 | 使用教材: 『日本語初級 I 大地』 |
| (2) 日本語初級 I (後期) | |
| 担当: 山路奈保子 | 時間数: 4.5 時間 (3 回) / 週 |
| 受講者数: 13 名 | 使用教材: 『日本語初級 I 大地』 |
| (3) 日本語初級 II (前期) | |
| 担当: 門澤健也, 高久裕子 (非常勤講師) | 時間数: 4.5 時間 (3 回) / 週 |
| 受講者数: 10 名 | 使用教材: 『日本語初級 II 大地』 |
| (4) 日本語初級 II (後期) | |
| 担当: 高久裕子 (非常勤講師) | 時間数: 3 時間 (2 回) / 週 |
| 受講者数: 12 名 | 使用教材: 『日本語初級 II 大地』 |

7.3 学部・大学院 日本語科目

正規の日本語科目は、前期・後期それぞれA～Dまでの4科目が開講された。これらの科目はレベル別対応であると同時に、初級文型のみを用いた口頭コミュニケーション(A1)から、高度な婉曲表現を伴う会話や文書表現によるビジネスコミュニケーション(D2)まで、学生の様々なニーズに対応する内容となっている。学生は複数の科目を並行して受講することができる。

(1) 日本語 A1(前期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:初級～初中級

受講者数:19 名

使用教材:『研究留学生の日本語会話』(前半)

授業内容:理工系分野における専門基礎語彙を導入するとともに、ゼミでの質疑応答や学会発表についての相談など、留学生が研究生活で出会う場面でのモデル会話を通じて、実際のコミュニケーション場面において既習の文型・表現がどのように現れるかを提示し、既習表現の運用力の向上を図った。

(2) 日本語 A2(後期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:初中級

受講者数:15 名

使用教材:『研究留学生の日本語会話』(後半)

授業内容:より発展的な文型・表現とともに、学内外の人々との社会・文化的テーマでの会話における理解力や表現力を高めるための語彙・表現や文化的知識を導入し、さまざまな場面で円滑に会話を展開できるコミュニケーション技能の向上を図った。

(3) 日本語 B1(前期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級

受講者数:13 名

授業内容:科学技術分野にかかわるトピックのテレビ番組や雑誌記事等を材料に、大学・大学院で学ぶための基礎的な語彙・表現を理解し適切な文脈で使用できるようになるとともに、抽象的な事柄を説明する文章を組み立てられるようになることをめざす総合的な訓練を行った。

(4) 日本語 B2(後期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級

受講者数:11 名

授業内容:日本語によるスピーチ・プレゼンテーションの技能を身につけるため、本を紹介するスピーチを競う「ビブリオバトル」を授業に導入し、聞きやすい話しかたとわかりやすい構成のしかたの指導を行った。

(5) 日本語 C1(前期)

担当:門沢健也

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級～上級

受講者数:13 名

授業内容:なまの新聞記事を教材として、実際の情報伝達、ジャーナリズムで使われるような、高度でかつ正式な日本語表現の理解読解の訓練を行った。また、それぞれのトピックに関する時

事問題や日本の文化・習慣・歴史・生活用語などについて解説した。

(6) 日本語 C2(後期)

担当: 山路奈保子

時間数: 1.5 時間(1 回) / 週

レベル: 中級～上級

受講者数: 11 名

授業内容: 社会的影響の大きい事件・現象や生活に変革をもたらす新技術・新製品に関する新聞記事を取り上げ、読解力・表現力の向上とともに日本社会に対する理解力の強化を図った。併せてテレビニュースを活用した聴解訓練も行った。

(7) 日本語 D1(前期)

担当: 山路奈保子

時間数: 1.5 時間(1 回) / 週

レベル: 上級

受講者数: 5 名

授業内容: 日本企業への就職を視野に、込み入った内容を印象的かつ要領よく伝える方略や聞き手に対する配慮のしかたの実践的なトレーニングを行った。

(8) 日本語 D2(後期)

担当: 山路奈保子

時間数: 1.5 時間(1 回) / 週

レベル: 上級

受講者数: 10 名

授業内容: ビジネス会話やビジネスメールにみられる高度なコミュニケーション戦略について、会話教材や漫画、実際のメールなどを素材に観察・考察を行った。

7.4 学部・大学院共通科目

(1) 異文化交流B

担当: 山路奈保子

協力(特別講義担当): クラウゼ=小野マルギット(ひと文化系領域准教授), 清末愛砂(同), 内藤直子(国際交流センター), 武川梢(同)

時間数: 15 時間(集中講義)

受講者数: 12 名

留学生と日本人学生が共同作業を行う中で、異文化について学ぶとともに自らの文化に関する考察を深めることを目的とする講義である。2012 年度後期は学期末の集中講義として開講した。参加学生はそれぞれ 2 回プレゼンテーションを行った。1 回目は自分の故郷を紹介する個人でのプレゼンテーション、2 回目は自分たちで選んだテーマでディスカッションを行った結果を発表する、グループでのプレゼンテーションである。2 回のプレゼンテーションの間で、異文化の中での生活体験を持つ講師による特別講義も行われた。

(2) 新冠農業実習(社会体験実習)

国際交流センター自体の所轄ではないが、国際交流センターの専任教員が発案し実施を担当している、本学の特色ある実習科目の一つに、「新冠農業実習」がある。

工学を志し、工学を学び、そして多くは工学を生涯のなりわいと為す、という工業大学の学生たちに、ちょっと視点を変えて農業を体験させるのはどうだろうか。それが新たな自己を発見したり新しい価値観や職業観をはぐくむ契機となり、人生を豊かにしたり生きるための力を与えてくれるのではないだろうか。—そんな発想から、2001(平成 13)年度から、日高管内新冠(にいかっふ)町の篤農家グループの協力を得て、同地域での農業実習を正規の科目として導入した。この新冠農業実習は、毎年 10～20 人の学生

を新冠町の水田・畑作・酪農・肉牛・軽種馬・養鶏などの農家に分けて 10 日間寄宿させ、家族の一員として生活をともにしながら、農作業や農家の生活を体験させようというもので、参加した学生には「社会体験実習」の 2 単位が与えられる。

参加した学生たちは、10 日間の実習で、日ごろ慣れないきつい労働を経験して、疲れや筋肉痛を訴えながらも、恒例の実習最後の閉講式では、「食糧生産の大切さとその現場の苦労を知った」「農家の人々の明るさとエネルギーから元気をもらった」「農業の中で工業技術がどのように求められているかを身をもって知ることができた」などの感想を力強く述べる。

2012 年度の第 11 回まででこの実習に参加した学生は 180 人以上に達し、2009 年からは国内の提携大学である東京都市大学の学生にも参加の門戸を開放し、また留学生の参加も増えるなど、学生たちにとって、異業種・異文化・異世代、そして国際交流のまたとない機会となっている。

この農業実習の特徴は、毎年度男子よりも女子の参加者の方が格段に多いことで、2012 年度は参加者 8 名のうち 6 名が女子であった。(本学全体の女子学生の割合は約 9%)

また昨年度から実習開始前に、特に「工業大学・工業系の学生が農業を体験することの意味は何か」と「その農業実習を担当しているのが国際交流センターの教員であることの意味は何か」という二つの疑問を提示し、実習終了後のレポートで自分の考えを示すように指示したところ、そういった格別のテーマを与えなかった前々年までと比較して、明らかに参加学生が主体的にこれらの課題について、深く考察し、レポートの内容に活かして書いてきたことが非常に印象的であった。それにしただけで、レポートの内容自体も、内容が深く、中身の濃いものになったことは、うれしい収穫であった。

この農業実習のような実習科目でも、事前に学生が興味・関心を持つような疑問や考えるテーマを提示し、それについて考えさせることは、非常に重要なことだと気づかされた。



アスパラ農家での作業



朝早くからの牛舎での作業

8. 室蘭工業大学国際セミナー

同セミナーは、学生と市民の皆さんとともに、世界のさまざまな国や地域について勉強し合い、国際的な視野を拡げることを目的としている。

(1) 第 40 回 室蘭工大国際セミナー

開催日:2012年6月20日(水)

参加人数:約70名(市民,学生,教職員を含む)

テーマ:地球の遊び方

～工大生・工大卒業生の海外貧乏旅行の記録～

講演者:60万円で半年間のアジア放浪

笹尾 鎮矢

2009(平成21)年,室蘭工業大学機械航空創造系学科入学

ワーキングホリデー(3年間2カ国)での海外勤労体験記

伊藤 研人

2009(平成21)年,室蘭工業大学機械システム工学科卒業



質疑応答に応じる講演者

(2) 第 41 回 室蘭工大国際セミナー

開催日:2012年12月21日(金)

参加人数:約40名(市民,学生,教職員を含む)

テーマ:世界をフィールドに活躍する先輩に聞く

～めざせ!グローバルエンジニア!～

講演者:途上国での都市開発支援

～ザンビア,ミャンマーを事例に～

半井 真明

2007(平成19)年,室蘭工業大学建設システム工学専攻修了



半井さんの講演

9. 留学生を対象とした行事, 研修等

9.1 国際交流センター主催行事

(1) 留学生オリエンテーション及び新入学留学生歓迎交流会

開催日:2012年5月11日

参加人数:約130名(チューター, 教職員を含む)

新たな留学生に対して留学生関係教職員の紹介を行い, 日本での生活上の注意事項を説明した。また, 室蘭警察署の方をお招きし, 交通安全について説明していただいた。その後, 在籍中の留学生及びチューターを紹介し, 新入学留学生歓迎交流会を行った。



オリエンテーション



交流会, 各国の料理が並ぶ

(2) 室蘭岳登山

開催日:2012年5月19日

参加人数:25名(チューター, 教職員を含む)

室蘭岳(標高911メートル)登山を実施し, 4月に来日した新しい留学生を含む25名が参加した。



登山風景



五月晴れの山頂にて

(3) 外国人留学生等見学旅行

開催日:2012年8月19~21日

参加人数:54名(留学生家族, 教職員を含む)

北海道内の自然や特有の産業施設等の見学を通じて, 留学生が北海道の文化, 歴史, 産業等についての知識や理解を深めることを目的として, 今年度は札幌・小樽方面へ2泊3日の日程で実施した。

《日程》

8/19	工大～京極ふきだし公園～余市町 ニッカウイスキー北海道工場余市蒸留所(工場見学)～水明閣(昼食)～旧余市福原漁場<国指定史跡>(施設見学)～積丹町 神威岬～ホテル(泊)(小樽グリーンホテル)
8/20	ホテル～小樽市 株式会社 光合金製作所(工場見学)～テラスブラッセリー(昼食)～宗円寺 五百羅漢像<北海道指定有形文化財>～小樽市役所～北一ガラス三号館(施設見学)～札幌市旬菜食健ひな野(夕食)～ホテル(泊)(ホテルルートイン札幌)
8/21	ホテル～札幌市 下水道科学館・下水処理場(施設見学)～シャトレーゼガトーキングダム ヴィーニユ(昼食)～モエレ沼公園(施設見学)～札幌芸術の森美術館～工大



旧余市福原漁業にて



株式会社 光合金製作所を見学



札幌市下水処理場を見学

(4) 10月新入学留学生歓迎ウェルカムランチ

開催日:2011年10月16日

参加人数:31名(チューター, 教職員を含む)

10月に新しく来日した留学生, インターンシップ生が早く本学での生活に馴染めるよう, 歓迎会を開催し, 留学生同士, 国際交流センター教職員との交流を図った。



10月に来日した留学生

(5) 秋季見学旅行

開催日:2012年10月20日(土)

参加人数:43名(留学生家族,教職員を含む)

10月以降に入学した留学生に室蘭・登別市内,洞爺湖町内の観光名所を案内し,各市町に対する理解を深めさせるとともに,留学生同士の交流を図る目的で実施した。

《日程》

10/20	工大～登別伊達時代村(見学,昼食)～洞爺レイクヒルファーム～洞爺湖温泉遊覧船～洞爺湖森林博物館(施設見学)～洞爺湖火山博物館(施設見学)～祝津展望台(室蘭夜景)～工大
-------	---



登別伊達時代村にて



洞爺湖に浮かぶ大島にて

(6) 生活安全講習会及び異文化交流持ち寄りパーティー

開催日:2012年12月14日(金)

留学生参加人数:約50名(チューター,教職員を含む)

交通事故,火災,地震及びインターネット犯罪などの事件・事故の防止のため,生活安全講習会を開催した。5月のオリエンテーションと同様,室蘭警察署の方をお招きし,室蘭工業大学で実際に起こった事故・事件について,また,日本で安全に生活するための対処方法などを説明した。その後,留学生及び日本人学生,国際交流センター教職員との交流を深めるために各国の料理を持ち寄り,異文化交流持ち寄りパーティーを行った。



室蘭警察署からの説明



異文化交流持ち寄りパーティー

(7) 野外セミナー(スキー研修)

開催日:2013年1月9日(水)

参加人数:73名(留学生家族を含む)

場 所:サンライバスキー場

東南アジア及び中近東など暖かい国の出身者が多い留学生に、スキーという野外活動を通じ、北国の冬の楽しみ方を紹介した。



スキー講習の様子



サンライバスキー場にて

(8) 留学生交流会

開 催 日:2013年2月22日

参加人数:約250名(留学生家族を含む。)

場 所:蓬峯殿

日頃留学生がお世話になっている市内等の国際交流推進関係諸団体及び市民等を招待し、交流会を通して留学生との親睦を図るとともに、卒業・修了する留学生を祝福することを目的として開催している。



卒業生代表による挨拶



青山市長、佐藤学長と卒業留学生



留学生によるアトラクション披露



学長夫妻、卒業生・修了生を中心に

9.2 学外の諸行事への留学生派遣、参加の状況

9.2.1 講師派遣

開催日	主催	行事名	留学生派遣人数
2012年7月6日	室蘭市立本室蘭小学校	国際交流教室	1
2012年7月16日	北海道登別明日中等教育学校	文化祭 異文化交流	7
2012年8月6日	室蘭市教育委員会	第2回むろらん子どもサミット	1
2012年8月23日	海星学院高校	インターナショナルクラブ料理体験	3
2012年9月28日	室蘭市立武揚小学校 PTA 教学部	中国料理体験	1
2012年10月18, 19日	北海道登別明日中等教育学校	English Camp	4
2012年10月30日	室蘭市立本輪西小学校	国際交流教室	2
2012年10月24日	登別ロータリークラブ	月例会での卓話	1
2012年11月14日	室蘭市立八丁平小学校	国際交流教室	3
2012年11月22日	室蘭ロータリークラブ	卓話	1
2012年12月18日	室蘭市立武揚小学校	国際交流教室	1
2012年12月21日	室蘭市立絵鞆小学校	国際交流教室	2
2012年12月5日	登別ロータリークラブ	月例会での卓話	1
2013年2月12日	室蘭市立旭ヶ丘小学校	国際交流教室	1
2013年2月18日	室蘭市立桜が丘小学校	国際交流教室	1
2013年2月26日	室蘭北ロータリークラブ	国際交流フォーラム	3
2013年3月6日	登別ロータリークラブ	月例会での卓話	1
合 計			34



室蘭市立八丁平小学校 国際交流教室



北海道登別明日中等教育学校文化祭

9.2.2 学外支援団体等支援行事

開催日	主催	行事名	留学生 参加人数
2012年4月15日	(社)茶道裏千家淡交会室蘭支部	春の茶会	10
2012年5月6日	室蘭国際交流センター	ウエルカム パーティー	32
2012年5月26日	長沼ロータリークラブ	長沼国際交流フェスティバル	3
2012年7月7日	室蘭市	イルカ・鯨ウォッチング	43
2012年7月7日	室蘭東ロータリークラブ	イタンキ浜清掃	9
2012年7月30日	むろらん港まつり実行委員会	市民おどり	25
2012年11月3日	(社)茶道裏千家淡交会室蘭支部	文化の日茶会	7
2012年11月17日	室蘭国際交流センター	Exchange Muroran 「中国料理体験」	2
2012年12月20日	室蘭ロータリークラブ	夜間例会	5
2013年2月9日	室蘭市国際交流推進協議会	さっぽろ雪まつり見学会	44
2013年2月16日	室蘭国際交流センター	さよなら着物パーティー	18
合 計			198

(1) 「ウエルカム パーティー」

主 催：室蘭国際交流センター

開 催 日：2012年5月6日

参加人数：32名

室蘭国際交流センターの主催により、新たに室蘭市民となった新入学留学生を対象とした交流会が開催された。日本伝統のお寿司調理体験やゲームなどを通じ、市民の皆様との交流を深めた。



手巻き寿司作りを体験した新入留学生

(2) イルカ・鯨ウォッチング

主 催：室蘭市

開 催 日：2012年7月7日

参加人数：43名

室蘭市の招待により、イルカ・鯨ウォッチング船無料体験乗船に参加した。室蘭沖の海洋生物に関するレクチャーの後、船に乗り、普段見ることのできないイルカや外海からの景色を楽しんだ。



海洋生物調査員・笹森さんのレクチャー



ウォッチング船に乗船



船上からイルカを観察

(3) イタンキ浜清掃

主催:室蘭東ロータリークラブ

開催日:2012年7月7日

参加人数:9名

室蘭東ロータリークラブが行っているイタンキ浜海水浴場の清掃活動に参加した。当日は、室蘭大谷高校インターアクトの学生と合同で清掃を行い、清掃終了後は交流会が開催された。



イタンキ浜清掃を終えて



室蘭大谷高校の学生との交流会

(4) むろらん港まつり「総参加市民おどり」

主催:むろらん港まつり実行委員会

開催日:2012年7月30日

留学生参加人数:25名

むろらん港まつりのイベントの1つである「総参加市民おどり」に留学生が参加した。大学職員とともに「室蘭ばやし」や「北海盆唄」に合わせて街を踊り歩き、日本のお祭りを楽しんだ。



学長、理事、踊りの先生とともに



晴天に恵まれ、華麗な踊りを披露

(5) さっぽろ雪まつり見学会

主催:室蘭市国際交流推進協議会

開催日:2013年2月9日

参加人数:44名

室蘭市国際交流推進協議会の主催により、留学生とその家族を対象としたさっぽろ雪まつりへのバスツアーに参加した。雪まつり大通り会場の他、札幌市青少年科学館を見学した。



札幌青少年科学館を見学



大通り公園の雪像の前で

(6) さよなら着物パーティー

主催:室蘭国際交流センター

開催日:2013年2月16日

参加人数:18名

毎年、室蘭国際交流センター主催で開催される、卒業して室蘭を離れる留学生とその家族のためのパーティーに、今年は留学生18名が参加した。着物の着付けとファッションショー、記念撮影会が行われた後、市民の皆様の手作りの食事を囲んで交流を深めた。



着物を着て、ファッションショーなどを楽しんだ



市民の皆様の手作りの食事を囲んで

9.2.3 その他の行事

開催日	主催	行事名	留学生 参加人数
2012年4月15日	NPO法人 羅針盤	ダイヤモンドプリンセス 歓迎ボランティア	12
2012年6月16日	室蘭ルネッサンス	交流懇談会	2
2012年7月15日	室蘭港鉄人舟漕ぎ大会 実行委員会	室蘭鉄人舟漕ぎ大会	17
2012年7月24日	函館どつく室蘭製作所	進水式	6
2012年8月26日	水元町内会	熊野神社例大祭はだか神輿	8
2012年8月31日	伊達市農家	農作業体験	8
2012年9月30日	NPO法人 羅針盤	ダイヤモンドプリンセス 歓迎ボランティア	7
2012年10月15日	室蘭ルネッサンス	交流懇談会	2
2012年10月28日	(社)全日本きものコンサルタント 協会	「日本の心と美の祭典 全日本きもの 装いコンテスト」地区大会	6
2013年1月～3月	室蘭社会福祉協議会	雪かきレンジャーボランティア	5
2013年1月10日 ～1月27日	NTT 室蘭支店/ 内モンゴル教育基金	カレンダーリサイクル市	15
2013年3月8, 15日	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協 議会	洞爺湖ジオパーク体験・ ピザプロジェクトモニターツアー	32
合 計			120



室蘭鉄人舟漕ぎ大会



神輿担ぎを体験

10. 学術交流協定校との交流

10.1 協定校等への訪問

(1) 中国 曲阜師範大学日照校

訪問先:曲阜師範大学

訪問日程:2012年6月28日

訪問者:もの創造系領域教授 齋藤 務

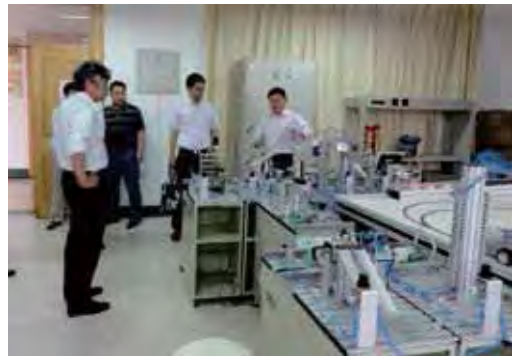
しくみ情報系領域教授 施 建明

国際交流センター事務室スタッフ 南 圭奈

訪問内容:調査, 大学視察, 大学概要の説明ならびに交流内容の協議



曲阜師範大学日照校にて協議



射程制御実験室見学

(2) 中国 大連交通大学

訪問先:大連交通大学

訪問日程:2012年6月29日

訪問者:もの創造系領域教授 齋藤 務

もの創造系領域教授 清水 一道

国際交流センター事務室スタッフ 南 圭奈

訪問内容:交流内容の協議, 進学説明会開催ならびに大学視察



大連交通大学にて協議



機械系研究室見学

(3) 中国 内蒙古師範大学

訪問先:内蒙古師範大学

訪問日程:2012年9月7日～9日

訪問者:副学長・しくみ情報系領域教授 岩佐 達郎

しくみ情報系領域教授 酒井 彰

国際交流センター事務室ユニットマネージャー 塩崎 泰子

訪問内容:学長フォーラム, 60周年記念式典へ出席, 交流内容の協議ならびに研究室訪問



学長フォーラム



60周年記念式典

(4) 中国 華中科技大学

訪問先:華中科技大学

訪問日程:2012年10月5日～7日

訪問者:理事・副学長 伊藤 秀範

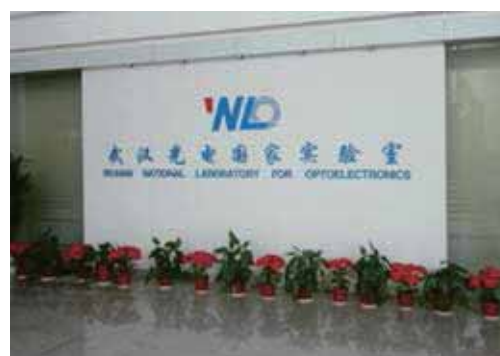
くらし環境系領域教授 溝口 光男

国際交流センター准教授 山路 奈保子

訪問内容:60周年記念式典出席, 交流内容の協議ならびに主要講座の研究説明, 大学視察



60周年記念式典(出典:華中科技大学HP)



武漢光エレクトロニクス国家実験室

(5) インドネシア 北スマトラ大学

訪問先:北スマトラ大学

訪問日程:2012年11月28日～30日

訪問者:理事・国際交流センター長 加賀屋 誠一
もの創造系領域教授 埜上 洋

訪問内容:調査, 大学視察, 交流内容の協議ならびに主要講座の説明



北スマトラ大学学長, 国際担当副学長らと共に



埜上教授講演会会場の前で

(6) アメリカ ウェスタンワシントン大学

訪問先:ウェスタンワシントン大学

訪問日程:2013年3月19日

訪問者:ひと文化系領域准教授 吉川 エリザベス

国際交流センター事務室特定専門職員 内藤 直子

訪問内容:調査, 大学視察, 交流内容の協議



ウェスタンワシントン大学キャンパス



ハクスレー環境学部



(左) 拡大教育部ギボンズ博士,
(右) ハーラン氏

10.2 外国，協定校等からの訪問受け入れ

(1) 中国 華中科技大学学長訪問団

訪問日程:2012年5月10日,11日

訪問者:学長 李 培根

化学化工学院院長 郭 興蓬

船舶海洋工程学院院長 解 徳

材料化学工程学院院長 黄 云輝

人事処副処長 張 濤

国際交流処 処長助理 程 潤文



学長表敬訪問 (中央右)李学長

訪問内容:表敬訪問, 研究室訪問, 大学概要の説明ならびに交流内容の協議



航空宇宙機システム研究センター見学



ものづくり基盤センター見学

(2) タイ キングモンクット工科大学ラカバン校

訪問日程:2012年6月7日

訪問者:建築学部長 Boonsanong Ratanasoontragul

建築学部 国際遠隔教育担当 准教授 Suphawadee Ratanamart

建築学部 建築計画議長 助教授 Yanin Rugwongwan

訪問内容:表敬訪問, 大学概要の説明ならびに交流内容の協議



学長表敬訪問



国際交流センターにて, (中央)ブーンサノン学部長

(3) インド アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流(キズナ強化プロジェクト)訪日団

訪問日程:2012年12月3日

訪問者:インド高校生23名

高校生引率者2名

訪問内容:「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流(キズナ強化プロジェクト)」の一環として
インド高校生訪日団が来学し, 研究室訪問・交流を行った。



研究室を訪問し真剣に説明を聞くインド高校生



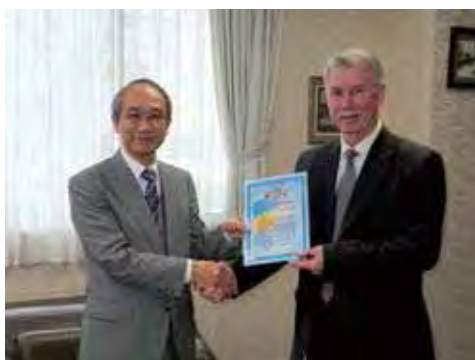
研究室訪問の後に, 本学教員・日本人学生と共に

(4) ウクライナ プリアゾフスキー国立工科大学

訪問日程:2012年12月7日

訪問者:副学長 Alexandu Cheiliakh

訪問内容:表敬訪問, 交流内容の協議, 清水研究室における研究交流



学長表敬訪問 (右)チェリアッカ副学長



(左)インターンシップ研修生 Yuliia Chabak

(5) 中国 合肥工業大学

訪問日程:2013年1月16日

訪問者:土木与水利工程学院院长 任 偉新

土木与水利工程学院副院长 江 擒虎

土木与水利工程学院院长補佐 陳 龍

教授 完 海鷹

准教授 李 凡

教授 王 佐才

教授 張 広鋒 ※本学博士後期課程修了生



学長表敬訪問 (中央左)任学院院长

訪問内容:表敬訪問, 研究室訪問, 大学概要の説明, 任学院院长による講演



研究室訪問



任学院院长による講演



白鳥大橋主塔見学

10.3 共同セミナー, 共同事業等の実績について

(1) ロシア 極東連邦大学との国際共同セミナー「JSED2013」

日時:2013年3月8日

開催地:室蘭工業大学

主催:本学環境科学・防災研究センター, ロシア極東連邦大学

概要:極東連邦大学, 内蒙古師範大学, イギリス・ストラスクライド大学より各1名の大学教員, ならびに本学の教員27名, 学生67名が参加。基調講演, 口頭発表, ポスター展示, 共同セミナー等を開催した。



ポスター展示, 研究成果を発表

11. 学生の海外への派遣

11.1 短期留学

- (1) 学生氏名： 佐々木 遼
所属： 機械航空創造系学科 4年
派遣先： レオベン大学（オーストリア）
期間： 1年間（2012年9月～2013年8月）
経済支援： 日本学生支援機構短期留学支援奨学金 月額 8万円



Autonomous Mobile Robot Seminar



グラーツでの一枚

- (2) 学生氏名： 中谷 祐太
所属： 建築社会基盤系学科 3年
派遣先： レオベン大学（オーストリア）
期間： 1年間（2012年9月～2013年8月）
経済支援： 50周年記念事業起業家意識養成等のための学生の海外研修支援奨学金（室蘭工業大学奨学金） 月額 5万円



レオベン大学での講義



仲間との一枚

11.2 ロイヤルメルボルン工科大学 (RMIT) 語学研修

期間： 2012年8月22日～9月7日

内容： 海外学術交流協定提携校における英語研修，オーストラリア文化体験，
学生交流

※平成24年度留学生交流支援制度（ショートステイ，ショートビジット）採択事業

参加者：10名（男子7名，女子3名）

1. 澤田 杏介 建築社会基盤系学科1年
2. 互井 智貴 建築社会基盤系学科1年
3. 篠原 早喜 建築社会基盤系学科3年
4. 片倉 寛史 機械航空創造系学科1年
5. 小野寺 元 機械航空創造系学科1年
6. 橋本 怜奈 機械航空創造系学科2年
7. 小川 美咲 情報電子工学系学科1年
8. 鈴木 翔大 情報電子工学系学科2年
9. 前田 貢一 情報電子工学系学科3年
10. 鶴田 裕子 応用理化学系学科1年

引率： 山路 奈保子 ひと文化系領域准教授，国際交流センター専任教員
内藤 直子 国際交流センター 特定専門職員



修了式後英語の先生を囲んで



英語の授業を真剣に受講する学生

11.3 ヨーロッパ語学研修

期間： 2013年2月27日～3月18日

内容： 海外学術交流協定提携校ツヴィッカウ応用科学大学・ケムニッツ工科大学との学生交流及び下記の研修

①英語の語学研修 ②企業・博物館の見学 ③ヨーロッパの文化体験（訪問地：ドイツ、フランス、チェコ、ルクセンブルク）

参加者：13名（男子4名，女子9名）

1. 島影 亮司 建築社会基盤系学科1年
2. 櫻井 太貴 建築社会基盤系学科1年
3. 竹内 香澄 建築社会基盤系学科1年
4. 榎本 奈奈 建築社会基盤系学科1年
5. 横山 かなこ 建築社会基盤系学科1年
6. 西川 里実 建築社会基盤系学科2年
7. 村田 明日香 建築社会基盤系学科2年
8. 本間 愛理 建築社会基盤系学科2年
9. 小林 賢哉 情報電子工学系学科1年
10. 菊池 ともみ 情報電子工学系学科4年
11. 藤野 世那 応用理化学系学科2年
12. 生治 奈々 応用理化学系学科2年
13. 菊池 廣行 科目等履修生

引率： クラウゼ=小野・マルギット ひと文化系領域准教授，国際交流委員
三浦 淳 ひと文化系領域准教授，保健管理センター



ユースホステルの前での記念写真



宿泊施設内の食堂にて

11.4 台湾・大葉大学短期研修

期間： 2013年3月3日～3月12日

内容： 中国語研修・大葉大学日本語学科の学生との交流・日本語学習支援・台中，台北
および近郊の史跡見学

参加者：5名（女子5名）

1. 小野寺 瑠依 応用理化学系学科1年
2. 近藤 そのみ 応用理化学系学科1年
3. 外崎 智巳 応用理化学系学科1年
4. 高橋 里依 応用理化学系学科1年
5. 鶴田 裕子 応用理化学系学科1年

引率： 山路 奈保子 ひと文化系領域准教授，国際交流センター専任教員



巨大仏像前で集合



大葉大学学生の前でプレゼンテーション

11.5 ソウル科学技術大学校サマースクール

期間： 2012年8月11日～8月22日

内容： 初級韓国語の学習，韓国の文化（韓国の現代音楽，伝統行事，伝統衣装）の学習
ソウル科学技術大学の学生との交流，ソウル市内，博物館等の見学

参加者：3名（男子3名）

1. 山下 輝彦 建築社会基盤系専攻1年
2. 塚本 康誉 建築社会基盤系学科3年
3. 郷田 ジャン 情報電子工学系学科4年



サマースクールの開講式での様子

11.6 釜慶大学サマースクール

期間： 2012年8月6日～8月17日

内容： 初級韓国語の学習，韓国の文化（芸能，料理，工芸），釜慶大学の学生との交流，グループ活動，見学ツアー（慶州，釜山）

参加者：2名（男子1名，女子1名）

1. 須藤 正人 機械航空創造系学科4年
2. 杉林 結花 機械航空創造系学科2年



修了式を終えての記念写真



テコンドーを体験しました

11.7 泰日工業大学サマースクール

期間： 2012年8月23日～9月3日

内容： タイ語の学習，タイの文化，泰日工業大学の学生との交流，日系企業訪問

参加者：2名（男子2名）

1. 平出 翔大 材料物性工学科4年
2. 多田 哲朗 応用理化学系学科4年



修了式を終えての記念写真



初めてのタイ語授業を聴講

11.8 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞

賞の由来と趣旨

本奨学賞は、医学博士で博士（工学）である佐藤矩康先生のご寄附によって、2009年に創設されました。本学在学中の学部及び大学院の学生が海外国際会議での論文発表、海外での研究プロジェクト参画、海外インターンシップなど、国際的な場で活動し、成果を上げることがを支援し、奨励することを目的としています。

佐藤矩康先生は昭和2年、北海道富良野町に生まれ、北海道大学医学専門部を卒業後、医師、医学博士として医業に従事される傍ら、多年、刀剣考古学の研究に携わり、平成18年「X線CT法による上古刀のはばき構造の解析」によって室蘭工業大学から博士（工学）の学位（主査 桃野正教授）を授与されました。また長年、私的な奨学財団により学生生徒の就学を支援しておられます。

本奨学賞が、学生の皆さんの国際意識・国際能力の向上に繋がり、ひいては室蘭工業大学の教育研究の活性化にいささかでも寄与することを希望します。

故佐藤矩康（さとう のりやす）博士 略歴

昭和2年4月 北海道上富良野町生まれ

名寄小学校、名寄中学校を経て、

昭和25年3月 北海道大学医学専門部卒業

昭和25年4月 北海道立札幌医科大学内科学教室入局 医師

以後 日高門別町 町立病院内科医長、南幌町 町立病院院長 等を歴任

昭和34年10月 札幌市白石区にて、眼科医和子夫人と「内科眼科共立診療所」開設

平成12年4月 信佑会吉田記念病院医師、聖愛会発寒中央病院医師

平成23年9月 逝去

本奨励金は、年2回募集し、8名程度に各10万円を授与する。

【2012年度前期受賞者】

- ABDALLA WALEED ALSAYED MOHREZ
（創成機能工学専攻2年）
- 高橋 一弘（生産情報システム工学専攻2年）
- KHAIRUNNISA BINTI MOHD PAAD
（応用理化学系専攻1年）
- 舛澤 千尋（応用理化学系専攻1年）
- 楊 坤（機械創造工学系専攻2年）
- 中澤 辰哉（建築社会基盤系専攻2年）



【2012年度後期受賞者】

- 元茂 朝日（物質工学専攻1年）
- 大内 啓右（機械航空創造系学科4年）
- 中島 嵩平（航空宇宙システム工学専攻1年）
- 伊日勒图（創成機能工学専攻2年）



11.9 国際体験報告会・海外インターンシップ説明会

留学経験者と佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者の報告と海外インターンシップの面白さ、意義と効果を広く PR し、これを実施する IAESTE※（国際学生技術研修協会）の研修生募集試験への応募を勧誘する目的で、キャリアサポートセンターと共同で実施した。

※IAESTE（国際学生技術研修協会）

国際インターンシップを促進する非営利・非政府組織で、世界 80 カ国に支部（委員会）があり 4,000 社を超える企業とのネットワークがある。

【平成 24 年度前期開催分】

開催日時：2012 年 5 月 18 日

場 所：教育・研究 3 号館 N 棟 N104 講義室

参加学生数：約 30 名

講演者

① 留学経験者報告

鈴木 孝明（機械創造系工学専攻 2 年）

2011 年 9 月～2012 年 2 月 タイ・チェンマイ大学に留学



講演者の国際体験を熱心に聴く学生

② 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者報告

盧 波（生産情報システム工学専攻 3 年）

The 2011 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation での論文発表
2011 年 8 月 7～10 日，中国・北京

中里 直史（物質工学専攻 2 年）

ICFRM-15 での論文発表

2011 年 10 月 16～22 日，アメリカ・チャールストン

三上 慎太郎（機械創造工学系専攻 2 年）

ロシア科学アカデミー・シベリア支部・ニコラエフ無機化学研究所でのインターンシップに参加

2012 年 3 月～4 月，ロシア・ノボシビルスク

③ 海外インターンシップ説明会

中沢 恵太（機械システム工学科 4 年）

2011 年 8 月 タイ・チョンブリでインターンシップ

【平成 24 年度後期開催分】

開催日時：2012 年 11 月 30 日

場 所：教育・研究 3 号館 N 棟 N101 講義室

参加学生数：約 20 名

講演者

① 留学経験者報告

沼田 慶幸（建築社会基盤系学科 3 年）

2012 年 9 月 11～25 日 ドイツ・日独学生青年リーダー交流事業に参加

② 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者報告

高橋 一弘（生産情報システム工学専攻 2 年）

19th International Conference on Gas Discharges and Their Applications での論文発表

2012 年 9 月 2～7 日 中国・北京

永田 航太郎（情報電子工学系専攻 1 年）

EUROPT(R) ODE XI Barcelone 2012 での論文発表

2012 年 4 月 1～4 日 スペイン・バルセロナ

李 セロン（情報電子工学系専攻 2 年）

School of Design Nanyang Polytechnic でのインターンシップに参加

2012 年 2 月 14～22 日 シンガポール・ナンヤン



留学体験を語る講演者



国際体験について質問をする学生

11.10 海外語学研修説明会

海外語学研修説明会は、各語学研修に参加した学生に体験を発表した後に、教員から語学研修の概要を説明し、幅広く語学研修のPRをする目的で実施している。

【平成 24 年度前期開催分】

開催日時：2012 年 6 月 18 日

場 所：教育・研究 3 号館 N 棟 N101 講義室

参加学生数：約 30 名

- ・オーストラリア・RMITスタディツアー
佐々木 瞭 (機械航空創造系学科3年)
- ・ヨーロッパスタディツアー
小山 瑠衣 (応用理化学系学科3年), 玉尾 みなみ (建築社会基盤系学科2年)
- ・タイスタディツアー
赤沢 悠太 (機械システム工学科4年)
- ・台湾・大葉大学短期研修
一力 聡子 (建築社会基盤系学科4年)

【平成24年度後期開催分】

開催日時：2012年12月20日

場 所：教育・研究3号館N棟 N101 講義室

参加学生数：約25名

- ・オーストラリア・RMITスタディツアー
前田 貢一 (情報電子工学系学科3年)
- ・タイ・泰日工業大学サマースクール
多田 哲郎 (応用理化学系学科4年)
- ・韓国・釜慶大学校サマースクール
須藤 正人 (機械航空創造系学科4年)
- ・韓国・ソウル科学技術大学校サマースクール
山下 輝彦 (建築社会基盤系専攻1年)



語学研修の体験談を語る発表者



語学研修担当教員からの説明の様子

12. 外国人短期研修生・外国人研究員・外国人インターンシップ研修生受入れ

12.1 外国人短期研修生受入れ

(1) 泰日工業大学短期研修生受入

期 間:2012年4月16日～5月30日

内 容:タイ・泰日工業大学の学部学生が本学で1か月半にわたり短期研修を行う。短期研修生は、いくつかの専門科目を受講し、機械航空創造系学科の研究室に配属され、授業以外の学生生活動を行う。

※平成24年度留学生交流支援制度(ショートステイ, ショートビジット)採択事業

参加者:泰日工業大学研修生6名



大学の半被を着て修了式



本学留学生と一緒に日本語授業を聴講

(2) RMIT日本語研修生受入

期 間:2012年11月1日～12日

内 容: 本学の交流協定校であるオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学(以下RMITとする。)とのスタディーツアー及び学生交換に関する協定の合意事項実施のため、研修生を受入れる。研修は、本学での日本語による講義及び本学の学生との交流、北海道の自然や文化施設等の見学により、オーストラリアとは違った文化、歴史等についての知識・理解を深めることを目的とする。

※平成24年度留学生交流支援制度(ショートステイ, ショートビジット)採択事業

参加者:RMIT研修生7名, RMIT引率者1名



修了式を終えての記念写真



ものづくり基盤センターでの鋳造体験

12.2 外国人インターンシップ研修生受入れ

インターンシップ研修生受入れ制度は、外国の大学の正規課程に在籍する外国人学生で、本学において実施する研究、実験、解析、設計、製作等の研修プログラムに参加するものである。2012 年度は下記のとおり7名のインターンシップ研修生を受け入れた。

氏名	国	大学	受入期間	受入教員
TARASOVA ELENA	ロシア	Far Eastern Federal University	2012.5.19-2012.6.20	媚山政良
Kim Young-Hee	韓国	Gyeongju University	2012.8.5-2012.8.23	濱 幸雄
Kim Jun-Ho	韓国	Gyeongju University	2012.8.5-2012.8.23	濱 幸雄
Felix Klose	ドイツ	The West Saxony University of Applied Science Zwickau	2012.8.31-2013.2.28	相津佳永
Yuliia Chabak	ウクライナ	Pryazovskyi State Technical University	2012.9.15-2012.12.15	清水一道
Yu Tongting	中国	Huazhong University of Science and Technology	2013.3.20-2013.4.20	山路奈保子
Ju Yatu	中国	Huazhong University of Science and Technology	2013.3.20-2013.4.20	山路奈保子

12.3 外国人研究員受入れ

平成 24 年度より、国際連携による共同研究等を展開するために、室蘭工業大学重点研究経費(国際連携分)を設け、5名の外国人客員研究員を招へいた。また、日本学術振興会外国人招へい研究者(短期)により1名の外国人客員研究員を招へいた。

氏名	国	大学等	期間	事業名	受入教員
Li Geng	中国	河南理工大学	2012.5.1- 2012.10.13	重点研究経費 (国際連携分)	施 建明
Vasyl Iefremenko	ウクライナ	プリアゾフスキー 国立工科大学	2012.9.16- 2012.10.16	重点研究経費 (国際連携分)	清水一道
Adisa Azapagic	英国	マンチェスター大学	2012.9.16- 2012.10.6	日本学術振興会	永野宏治
Sakgasem Ramingwong	タイ	チェンマイ大学	2012.10.11- 2012.11.10	重点研究経費 (国際連携分)	藤木裕行
Dai Gang	中国	内モンゴル師範大学	2013.1.16- 2013.3.9	重点研究経費 (国際連携分)	岩佐達郎
Wang Yanjun	中国	上海財経大学	2013.1.12- 2013.2.12	重点研究経費 (国際連携分)	施 建明

13. 国際交流クラブ

国際交流クラブは、本学の公認課外活動団体（学生サークル）で、1994年に、その当時の留学生（院生）数人が中心となり、自分たちより年若い日本人の学生たちに、親睦と交流を呼びかける形で発足した。

当時は留学生の数がまだ少なく、またほとんどが修士か博士の大学院生、また家族随伴の留学生も多く、講座の研究室を除いては留学生と日本人学生（特に学部生）との接点や知り合う機会がほとんどないのが実情であった。当時の留学生は、せっかく日本に留学したのに日本人学生と交友を持つ機会が少ないことに残念さと危機感を持ち、学内に立って日本人学生にチラシを渡すところから活動を始めたのだった。

それに対して、意識の高い日本人学生たちが積極的に呼応して「国際交流クラブ」が創設され、以来20年が経過して留学生の数も出身国も増え、また学部生の留学生も増えたことから、現在は留学生・日本人合わせて部員が80人以上の大きなサークルとなった。

大学祭への参加や、お花見やジンギスカンなど、日本・北海道らしい活動をともにするほか、日常生活の中で留学生と日本人学生の交友・交流が見られるようになったのは、国際交流クラブの大きな功績といえる。また、留学生の母国を支援する教育基金の募金を行ったり、地震のような大きな災害があったときに日本人学生がともに募金活動を行ったりするような、社会性を持つ活動も行っている。

また、国際交流クラブの部員からの海外研修や海外インターンシップへの参加者、海外留学の希望者が確実に増えてきている。

国際交流センターも、国際交流センター専任教員が顧問教員を務めるほか、センターとして国際交流クラブの活動にさまざまな形で支援を行なっている。また国際交流センターが行う行事に国際交流クラブの部員が参加したり協力したり、海外研修などにも応募者を出すなど、国際交流センターと密に関係を保ちつつ、学生側の国際交流活動の窓口として、また主体として大いに活躍している。



新入生歓迎会

14. 広報活動

14.1 国際交流センターホームページ



日本語版トップページ



英語版トップページ

14.2 英文概要, 国際交流センターNews



英文概要



国際交流センターNews 3号, 4号

14.3 オリジナルグッズ



Tシャツ (表)



Tシャツ (裏)



フェイスタオル



ステッカー



ティッシュ



バック

14.4 広報活動グッズ



旗

15. 教員の研究活動

加賀屋 誠一

○著書（分担執筆）

加賀屋誠一：交通の分析・評価・計画、地域科学 50 年の歩みと展望，第 5 章，日本地域学会編，pp. 254-272，2012.

○査読論文

加賀屋誠一：東日本大震災の教訓と今後われわれがなすべきこと，環境共生，日本環境共生学会

Seiichi Kagaya, Masaru Uraoka, Ami Kato: Effects on Service Improvement of Mobility Management for Sustainable Urban Transport, 公共政策学, 第 6 号, pp117-138, 2012.

大林あずさ, 加賀屋誠一, 鈴木英一, 川村里実: 石狩川流域を対象とした洪水ハザードマップの現状・課題と改善策についての研究, 土木学会論文集 F6 (安全問題), Vol. 68, No. 2, pp. 12-17, 2012.

Katia Andrade, Seiichi Kagaya: Investigating Behavior of Active Cyclists, Influences on Bicycle Commuting, Transportation Research Record, No. 2314, pp. 89-96, 2012.

○論説

加賀屋誠一：環境共生における時空間のギャップを考慮した戦略的計画策定の考え方，環境共生

加賀屋誠一：インフラ再整備と都心環境の再生，北の交差点，Vol. 30, pp. 36-41, 2012.

○口頭発表および講演

日本環境共生学会・土木学会共催シンポジウム「地域の自然災害と環境共生」：パネリスト講演者として参加, 2012 年 5 月 27 日

コンクリート講演会(主催：(財)北海道コンクリート技術センター)：「持続可能な開発時代の戦略的社會基盤整備について」のタイトルで講演, 2012 年 7 月 23 日

札幌キワニスクラブ例会 卓話：「英国の官民パートナーシップによるまちづくり」のタイトルで講演, 2012 年 9 月 12 日

ザ・シンポジウムみなと実行委員会：パネルディスカッション「室蘭港の新たな飛躍に向けて～世界に貢献する室蘭港をめざして～」，コーディネーターとして参加, 2012 年 11 月 21 日

浦幌町地域防災セミナー：「防災力向上による安全安心なまちづくり」のタイトルで講演, 2013 年 3 月 10 日

門澤健也

○論文

門澤健也, 野口徹, 藤木裕行, 前田潤: 工学教育における農業実習とその教育効果, 工学教育, Vol. 61, No. 2, pp. 23-30, 2013. 3.

山路奈保子

○論文

山路奈保子: 日本人大学院生を対象とした多文化共生への意識向上をめざす試み: 山崎和夫・松村瑞子編, 『言語と文化の対話』, 花書院, pp. 223-231, 2012

○研究発表 (口頭発表)

山路奈保子・因京子・アブドゥハン恭子: 工学分野の大学院留学生の日本語ニーズインタビュー調査と試用教材への評価からー, 2012年度日本語教育学会秋季大会, 2012年10月14日, 北海学園大学

山路奈保子・因京子・アブドゥハン恭子: 「英語コース」所属研究留学生の研究室適応と日本語使用状況, 第15回専門日本語教育学会研究討論会, 2013年3月2日, 長崎大学

○研究発表 (ポスター発表)

山路奈保子・因京子・アブドゥハン恭子・徐燕・黄英哲: 学術的活動における日本語使用の実態と支援ニーズに関する質的調査ー大学院留学生・帰国留学生と専門分野教員を対象にー, 日本語教育国際研究大会 2012, 2012年8月18日, 名古屋大学

李セロン・山路奈保子: 日本語パブリックスピーキング入門としての「ビブリオバトル」導入の試み, 日本語教育国際研究大会 2012, 2012年8月18日, 名古屋大学

○講演

山路奈保子「工学系専攻の研究留学生を対象とした日本語会話教育-研究室コミュニケーションの円滑化のために」豊橋技術科学大学国際交流センターFD研修会 2013年2月8日

○外部資金獲得

科学研究費補助金 基盤研究(C) 「研究室コミュニケーションの円滑化をめざす日本語会話教材開発」(研究代表者)

科学研究費補助金 基盤研究(B) 「研究成果の日本語による受信発信の支援を目指したニーズ調査とリソース開発」研究代表者: 大島弥生 (研究分担者)

科学研究費補助金 基盤研究(C) 「大衆文化作品を利用した看護コミュニケーション技能教育の方法開発」研究代表者: 因京子 (研究分担者)

室工大から世界へ発信



新副学長 2人が抱負



限り「鉄人舟漕ぎ」

初の「鉄人舟漕ぎ」... 室工大の学生が海外で挑戦した...



海外生活の魅力紹介

海外生活の魅力紹介... 室工大の学生が海外で学んだこと...

むろらんまつり2日目



むろらんまつり2日目... 室工大の学生が参加した...

したやが千人太

したやが千人太... 室工大の学生が参加した...

海外で貴重な体験



海外で貴重な体験... 室工大の学生が海外で学んだこと...

中華まん作り学ぶ



中華まん作り学ぶ... 留学生招き国際交流...



タイ料理心づく

タイ料理心づく... 室工大の学生が海外で学んだこと...

海外留学促進に力



海外留学促進に力... 室工大の学生が海外で学んだこと...

海外での研究室工大生学ぶ



海外での研究室工大生学ぶ... ウクライナの教授講演...

交流協定の調印延期

交流協定の調印延期... 室工大と中国の大学から連絡...



セミナーなど

セミナーなど... 室工大の学生が海外で学んだこと...

泰州の研修生ら



泰州の研修生ら... 室工大の学生が海外で学んだこと...



博士課程 初心胸に

博士課程 初心胸に... 室工大の学生が海外で学んだこと...

博士課程 初心胸に

博士課程 初心胸に... 室工大の学生が海外で学んだこと...

28日に「きもの装いコンテスト」

中国人留学生 優勝へ猛特訓



留学生の文化理解を深め、国際交流を促進する目的で、28日に「きもの装いコンテスト」が開催された。中国人留学生は、事前の猛特訓を経て、優勝を飾った。

優勝した中国人留学生は、伝統的な着付けと美しい装いに賞賛された。このコンテストを通じて、留学生は日本の文化をより深く理解し、国際的な友人との交流も深めた。

「国際交流会館」完成

留学生、研究者の 宿泊施設



留学生と研究者の宿泊施設として、国際交流会館が完成した。この施設は、留学生の生活を支え、研究者の滞在を快適にするための重要な拠点となる。

施設には、個室から共同生活スペースまで、様々なニーズに対応できる設備が整っている。また、多言語対応のスタッフも配置されている。

東南ア3カ国 お国事情学ぶ

留学生、研究者が参加



東南アジア3カ国の国事情を学ぶための勉強会が開催された。留学生と研究者が参加し、それぞれの国の最新動向について活発な議論が行われた。

参加者は、現地の政治情勢や経済状況について詳しく学び、今後の国際交流の方向性について話し合った。

世界大会7人出場へ

きもの装いコンテスト、大賞入賞



きもの装いコンテストで大賞を受賞した7人の学生は、世界大会に出場する権利を得た。彼らは、日本の伝統文化を世界に紹介する貴重な機会を得た。

このコンテストは、留学生の文化理解を深め、国際交流を促進する目的で開催された。大賞を受賞した学生は、今後の活躍を期待されている。

日本語の上達めざす

留学生、日本語学習会に参加

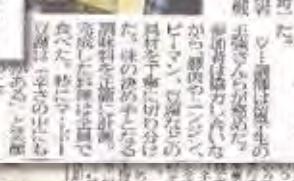


日本語の上達をめざす留学生が、日本語学習会に参加している。この学習会では、基礎から応用まで、様々なレベルの講座が用意されている。

参加者は、日本語教師の指導を受けながら、積極的に会話練習に取り組んでいる。学習意欲が非常に高い。

「室工大素晴らしい」

インドの高校生が見学



インドの高校生が、室工大学のキャンパスを見学した。彼らは、室工大学の施設や授業内容について詳しく学び、日本の大学進学について検討している。

見学の最後には、両校の学生が交流し、今後の国際交流の機会を話し合った。

海外体験 貴重な財産

室工大生4人が報告会



海外体験を貴重な財産と捉えている4人の室工大生が、報告会を開催した。彼らは、海外での生活や文化体験について詳しく報告し、聴衆から多くの質問を受けた。

報告会では、海外での学びや成長の経験が、今後の人生にどのような影響を与えているかについても話し合った。

「よい成果」

教授と学生 帰国



教授と学生が、海外での研究旅行から帰国し、よい成果を挙げた。彼らは、海外での研究や文化交流を通じて、多くの学びを得た。

帰国後には、研究成果を報告し、今後の研究計画についても話し合った。

将来像を探る

留学生、未来像を語る



留学生が、自身の将来像について語り合った。彼らは、海外での経験を通じて、自分の将来の夢や目標を明確にしている。

語り合った結果、互いに励み合い、共に成長していく決意を固めた。

「都市開発」テーマ 室工大で卒業生講演

アヤシキマンナなどの都市開発を語る



「都市開発」をテーマに、室工大で卒業生講演が行われた。アヤシキマンナなどの都市開発について、詳しく語り、聴衆から多くの質問を受けた。

講演では、都市開発の重要性や最新の動向について詳しく話し、今後の都市開発の方向性についても話し合った。

「よい成果」

教授と学生 帰国



教授と学生が、海外での研究旅行から帰国し、よい成果を挙げた。彼らは、海外での研究や文化交流を通じて、多くの学びを得た。

帰国後には、研究成果を報告し、今後の研究計画についても話し合った。

和やかに本場のヨーガ作り

中国人留学生と交流



和やかに本場のヨーガ作りを行い、中国人留学生と交流した。ヨーガを通じて、心身の健康を促進し、互いに交流を深めた。

ヨーガの後は、お互いの文化や生活について話し合い、交流を深めた。

「都市開発」テーマ 室工大で卒業生講演

アヤシキマンナなどの都市開発を語る




「都市開発」をテーマに、室工大で卒業生講演が行われた。アヤシキマンナなどの都市開発について、詳しく語り、聴衆から多くの質問を受けた。

講演では、都市開発の重要性や最新の動向について詳しく話し、今後の都市開発の方向性についても話し合った。

「よい成果」

教授と学生 帰国



教授と学生が、海外での研究旅行から帰国し、よい成果を挙げた。彼らは、海外での研究や文化交流を通じて、多くの学びを得た。

帰国後には、研究成果を報告し、今後の研究計画についても話し合った。

桜が丘小で児童と交流

ネパール出身の室工大留学生



ネパール出身の室工大留学生が、桜が丘小学校で児童と交流した。児童たちと遊んだり話したりして、交流を深めた。

交流を通じて、児童たちは留学生の文化や生活について学び、国際的な友人を作った。



ファッションショーでポーズを決める室工大の留学生

和服姿に成長の跡

室工大を月に1回訪れる留学生は、和服姿で日本の文化を体験し、成長の跡を見られる。ファッションショーでポーズを決める留学生は、和服姿で日本の文化を体験し、成長の跡を見られる。



和服姿に成長の跡



海外の現状学ぶ

海外の現状学ぶ

室工大卒業生が講演。海外の現状を学ぶ。卒業生が講演し、海外の現状を学ぶ。卒業生が講演し、海外の現状を学ぶ。



ネット集めたカレンダー販売

ネット集めたカレンダー販売

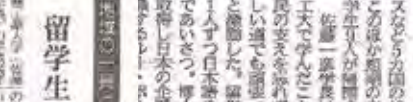
ネット集めたカレンダー販売。卒業生がネット上でカレンダーを販売し、収益の一部を支援活動に充てる。



留学生の門出を祝福

留学生の門出を祝福

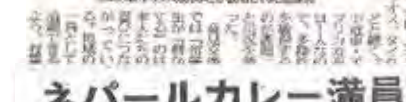
留学生の門出を祝福。卒業生、修了生の交流会。卒業生、修了生の交流会で、留学生の門出を祝福する。



室工大の留学生ならパーティー

室工大の留学生ならパーティー

室工大の留学生ならパーティー。留学生の交流を促進するパーティーを開催する。



留学生支援策考える

留学生支援策考える

留学生支援策考える。留学生の生活や学習を支援するための策を考案する。



高い知識、833人それぞれの道

高い知識、833人それぞれの道

高い知識、833人それぞれの道。卒業生がそれぞれの道に進み、高い知識を身につけている。



ネパールカレー満員御礼

ネパールカレー満員御礼

ネパールカレー満員御礼。卒業生がネパールカレーを販売し、収益の一部を支援活動に充てる。



室工大で学位記授与式

室工大で学位記授与式

室工大で学位記授与式。卒業生に学位記を授与する式典を開催する。



留学生をサポート

留学生をサポート

留学生をサポート。留学生の生活や学習をサポートするための取り組みを紹介する。



カナダの実情

カナダの実情

カナダの実情。カナダの社会や文化に関する情報を提供する。



魅力に触れる

魅力に触れる

魅力に触れる。卒業生がそれぞれの道に進み、魅力を感じている。

17. おわりに

国際交流センター准教授 山路奈保子

2011 年度報告書の「おわりに」には、留学先として日本を選ぶ意義が変わりつつあると書きました。経済や科学技術において日本の相対的な地位が下がっていたところに東日本大震災と原発事故が起き、留学生数の減少があったことを受けてのものでした。そして 2012 年度は領土問題という嵐が吹き荒れました。自国外で学びたい学生たちを日本から遠ざけてしまうできごとが相次ぎ、「留学生 30 万人計画」はどこへやら、全国の留学生数は 2010 年に 14 万人を超えたのをピークに、その後 13 万人台に逆戻りして足踏み状態が続いています。円安が継続し経済が回復すれば留学生もまた増加に転じるのか、それとも減少の一途なのか、先行きは不透明です。

室蘭工業大学では 2009 年に留学生数が 100 人に達し、その後も 3 桁を維持しています。震災直後には短期留学や短期研修のキャンセルが数件ありましたが、留学生数全体が大きく減ることはありませんでした。中国で反日デモが荒れ狂った時期には、新たな交流協定の調印式が一件延期されたものの、協定自体は締結されましたし、その後も中国各地の協定校からの留学生は順調に来日しています。楽観視はできませんが、室蘭工業大学の留学先としての魅力は、今のところはどうか維持できているものと思います。

一方で残念なこともありました。本学で今まで実施していなかった中国における中国語研修を、協定校である華中科技大学が受け入れてくれることになり、順調に企画が進んでいたのですが、日中関係が冷え込んだあおりで航空会社が日中間フライトの便数減を行ったために日程変更の必要が生じて募集開始が遅れに遅れ、さらにその時期に中国都市部の大気汚染問題が大きく取り上げられたことも重なって、応募者が定数に達せず中止を余儀なくされました。ただ、そんな中でも「こんな時期だからこそ、中国の学生が本当はどんなことを思っているのか知るために行ってみたい」と研修について問い合わせてきた学生がいたのは嬉しいことでした。

これからも政治や経済の状況に何かと振り回されるとは思いますが、私達国際交流センターは、何があろうとも学術・教育上の国際交流の拡大に日々努めていかなければならないと、2012 年度を振り返りつつ、決意を新たにしております。



室蘭工業大学

MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

室蘭工業大学 国際交流センター

〒050-8585 室蘭市水元町27番1号

<http://www.muroran-it.ac.jp/>

E-mail:kokusai@mmm.muroran-it.ac.jp

TEL : (0143) 46-5885

FAX : (0143) 46-5889 